

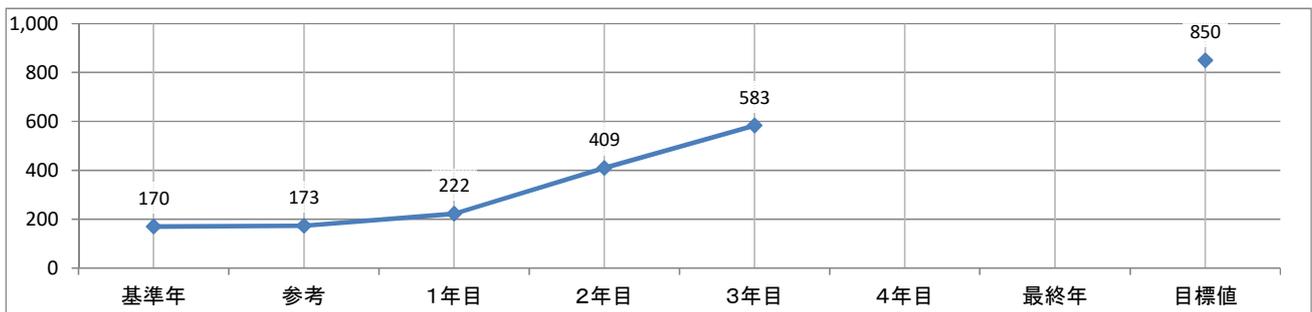
6. 基本施策

展開方向	項目	評価
1	ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保	A
2	地域農業を支える力強い経営体の育成	B
3	農地利用の最適化と生産基盤の整備による農業の成長産業化	B
4	農地・農業水利施設等の適切な保全管理の推進	A
5	ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化	B
6	国際競争に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立	B
7	地域の特性を生かした持続的な水田農業の展開	B
8	DXを背景としたスマート農業等の新技術や新品種の研究開発と普及促進	A
9	農業経営の安定化に向けたリスクマネジメントの強化	B
10	県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大	A
11	農畜産物等の輸出促進による販路拡大	C
12	食の地産地消の推進による地域内の経済循環の向上	A
13	安全確保策に基づく安全・安心な農畜産物の提供	A
14	歴史的・文化的背景を持つ多彩な地域特産物の生産振興	B
15	資源循環を目指した環境保全型農業の推進	B
16	誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化	B
17	官民共創による野生鳥獣被害防止対策の強化	B
18	「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の拡大・深化	A
19	農村協働力（地域の絆）の深化による多面的機能の維持・発揮	A

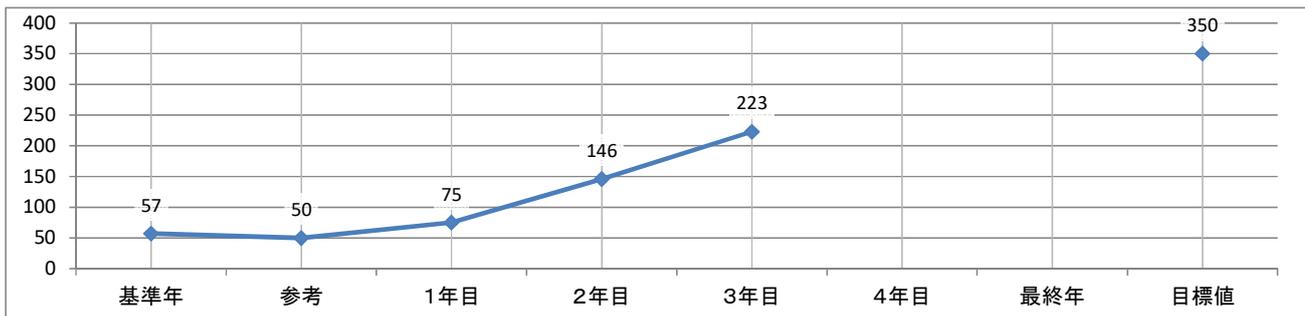
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】		
展開方向	ニューノーマルに対応した多様な農業従事者の確保		
推進内容	①新規就農に向けた支援の拡大 ②人材育成のための農業教育の充実 ③農外からの企業参入の推進 ④農業を支える人材の確保		
担当課	農業構造政策課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・就農相談については、コロナ禍に対応するためにオンラインによる就農相談窓口の整備(13ヶ所)や就農イベント参加(7回)の取組を行った。また、希望者には農業体験事業・就農留学事業を実施した。(成果 相談者:357人:延べ相談件数586件、新規就農者45歳未満:222人) ・「高校生のための農林業チャレンジセミナー」を実施し、高校生の就業・就農意識醸成に務めた。(成果 高校生参加者25人) ・農外からの企業参入については、13件の相談を受け、新たな担い手の確保に努めた。相談対応のうち1件が参入、2件が参入に向けて調整を行っている。 ・多様な人材確保に係る農福連携を推進し、特別支援学校生徒の現場実習を支援し、特別支援学校生徒1名が農業法人に就農した。
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・新規就農者や担い手の確保に向けて、就農イベント出展等を行った(9回)。また、就農希望者には農業体験事業・ファームトレーニング事業を実施した。農業体験事業では、受入れ農家に有機農業者を追加し、有機農業を志望する相談者への対応を強化した。(相談者:368人:延べ相談件数583件、新規就農者45歳未満:187人) ・農外からの企業参入に関する相談を12件受けた。相談対応のうち1件が調整中であり、令和3年度からの継続案件2件が企業参入となった。
	R5 (3年目)	A	【成果】 ・新規就農者や担い手の確保に向けて、就農イベント等への出展(8回)及び就農相談会(1回)を開催した。また、農業体験事業で農業理解の促進を図るとともに、就農希望者には技術習得研修としてファームトレーニング事業を実施した。 ・農業高校等と連携し、「高校生のための農林業チャレンジセミナー」を開催し、高校生の就業・就農意識醸成に務めた。(成果 高校生参加者57人) ・多様な人材確保に係る農福連携を推進し、特別支援学校生徒の現場実習を支援し、特別支援学校生徒2名が農業法人に就農した。 ・企業の農業参入は、企業的手法による経営展開を通じた農業の活力向上や農地の有効活用など、地域農業が抱える諸課題への解決に期待されている。そのため、農業参入を希望する企業からの相談に対応し、令和4年度には6企業増加した。 【課題】 ・社会情勢の変化等に伴い、農業への関心が高まっていることを契機と捉え、農業参入する企業の新たな掘り起こしを行っていく必要がある。
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

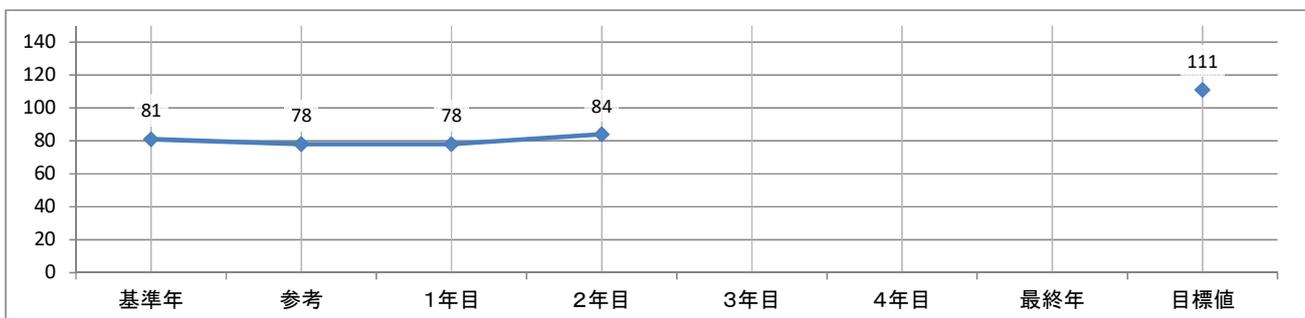
目標指標①	新規就農者数(45歳未満)(令和3年度からの累計数)							指標の単位	人	
実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	最終年	目標値	目標値に対する進捗率	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	170	173	222	409	583			850	60.7%
計画	170	-	170	340	510					



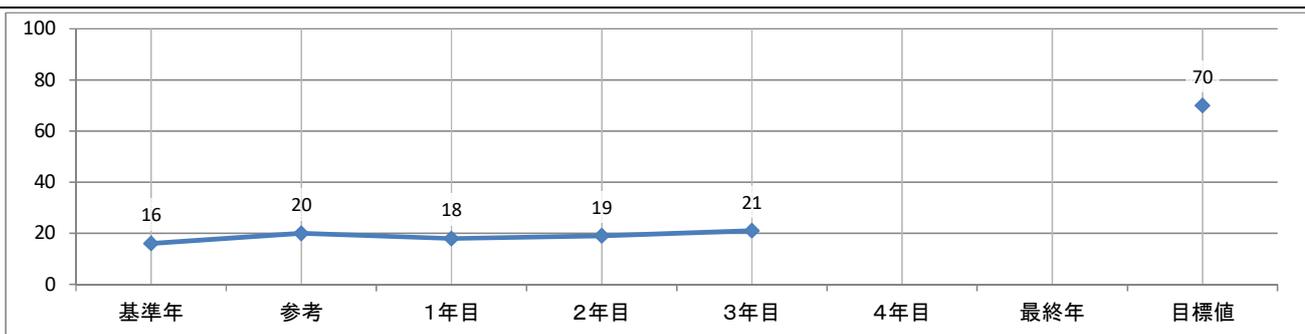
目標指標②		新規就農者数(45以上65歳以下)(令和3年度からの累計数)							指標の単位		人
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	57	50	75	146	223			350		56.7%
計画		-	70	140	210						



目標指標③		農外からの企業参入件数(年度別稼働数)							指標の単位		件
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	81	78	78	84	未公表			111		-
計画		-	87	93	101						



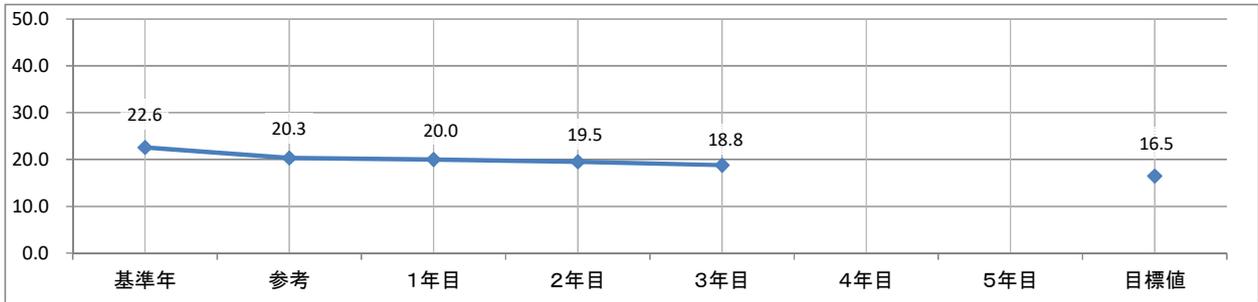
目標指標④		農福連携(共同受注窓口)利用農業者数(年度別)							指標の単位		戸
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	16	20	18	19	21			70		9.3%
計画		-	30	40	50						



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】		
展開方向	地域農業を支える力強い経営体の育成		
推進内容	①力強い担い手の育成 ②地域農業のリーダー育成と活動促進 ③女性農業者の活躍促進		
担当課	農業構造政策課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者の県認定(複数市町村に渡る改善計画)の認定事務を着実に実施することで、国・県による広域の認定農業者数は、制度開始から279経営体(県244、国35)に増加、令和3年度末までに、200経営体を認定するとして計画を上回る実績となった。また、集落営農組織等の経営基盤の強化を進めるため、県内の集落営農組織を対象としたアンケート調査を実施し、現状や課題を整理した。 ・農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士の認定事務を行うとともに、次代を担い地域農業のリーダー育成のため「農業青年実績発表会・リーダー研修会」を開催した(成果:経営士10人、アドバイザー7人、青年農業士20人新規認定)。また、「ぐんま農業フロントランナー養成塾」を開催し、将来の地域農業を担う経営感覚に優れた人材の育成に取り組み、20名の卒業生を輩出することができた(H24以降、のべ289名の卒業生を輩出)。 ・継続的な女性農業活動の学習や組織活動支援に努めました(成果:全国表彰事業「令和3年度農山漁村女性活躍表彰」農林水産大臣賞受賞1名、農山漁村男女共同参画推進協議会長賞受賞1名)。
	R4 (2年目)	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者の県認定(複数市町村に渡る改善計画)の認定事務を着実に実施することで、国・県による広域の認定農業者数は、制度開始から364経営体(県316、国48)に増加、令和4年度末までに、350経営体を認定するとして計画を上回る実績となった。 ・農業の課題解決に向けて、新たに農業経営体とスタートアップ企業とのマッチングを進めたところ、15件のマッチング成果を得た。マッチングした農業経営体とスタートアップ企業のうち一部は、令和5年度から実施する課題解決実証に取り組む見通しである。 ・優良経営体表彰において、県内生産者(1名)が農林水産大臣賞を受賞した。 ・農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士の認定事務を行うとともに、農福連携をテーマにトップリーダー研修会を開催した(経営士8人、アドバイザー8人、青年農業士15人新規認定)。 ・継続的な女性農業活動の学習や組織活動支援に努めた。(全国表彰事業「令和4年度農山漁村女性活躍表彰」農林水産大臣賞受賞1名、経営局長賞1団体)。
	R5 (3年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認定農業者の県認定(複数市町村に渡る改善計画)の認定事務を着実に実施することで、国・県による広域の認定農業者数は、制度開始から436経営体(県382、国54)に増加、令和5年度末までに、450経営体を認定するとして計画には届かなかったが順調に推移している。 ・農業の課題解決に向けて、引き続き農業経営体とスタートアップ企業とのマッチングを進め、追加で8件(累計24件)のマッチング成果を得た。また、公募による課題解決実証事業では、8件採択し、マッチングした農業経営体とスタートアップ企業が組んだ技術・サービスの実証を行った。 ・優良経営体表彰において、県内生産者(1名)が農林水産大臣賞を受賞した。 ・農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士の認定(農業経営士12人、農村生活アドバイザー5人、青年農業士8人)を行うとともに、地域の農業振興の一助に資するため、「農業トップリーダー研修会」や「農業・農村リーダー研修会」を開催した。また、次代を担う地域農業リーダーの育成を図るため「農業青年実績発表会・リーダー研修会」を開催した。 ・継続的な女性農業者の学習や組織活動支援に努めた。(全国表彰事業「令和5年度農山漁村女性活躍表彰」農林水産大臣賞受賞2名) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業経営体とスタートアップ企業との実証成果の円滑な実装に向けた体制づくりを進めていく必要がある。具体的には、試験研究と普及指導機関との役割を明確化することで、改善できるものと考えている。
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

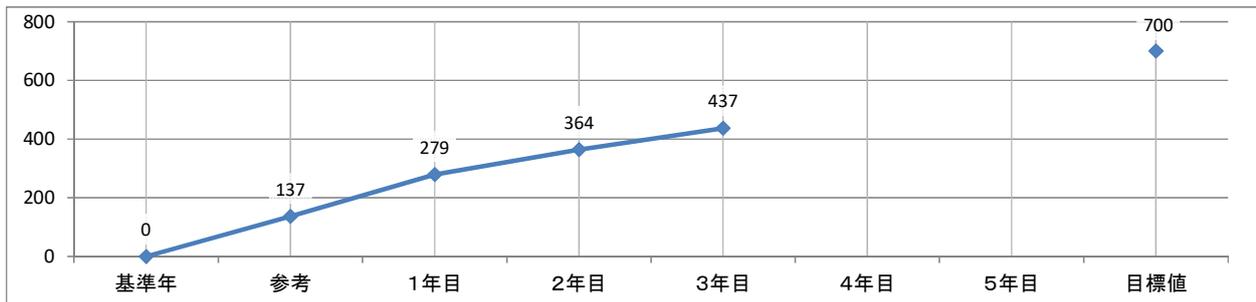
目標指標①		販売農家数							指標の単位	千戸	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	22.6	20.3	20.0	19.5	18.8			16.5		62.3%
計画		-	20.2	19.6	18.8						



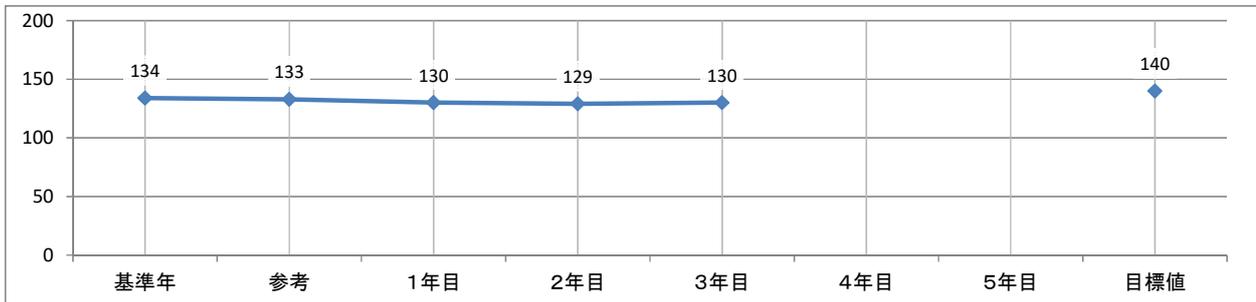
目標指標②		担い手数(年度末時点)							指標の単位	経営体	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	6,247	6,729	6,840	6,554	6,631			7,040		48.4%
計画		-	6,490	6,620	6,760						



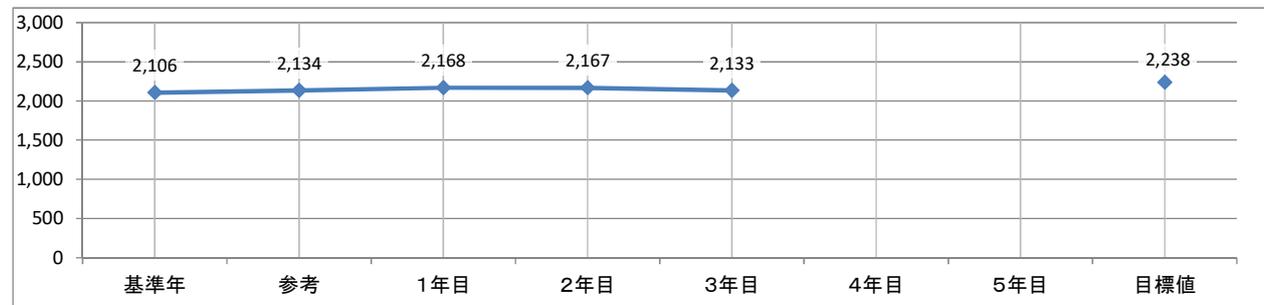
目標指標③		県・国による認定農業者数(県・国認定開始(R2年度)からの累計数)							指標の単位	者	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	0	137	279	364	437			700		62.4%
計画		-	200	350	450						



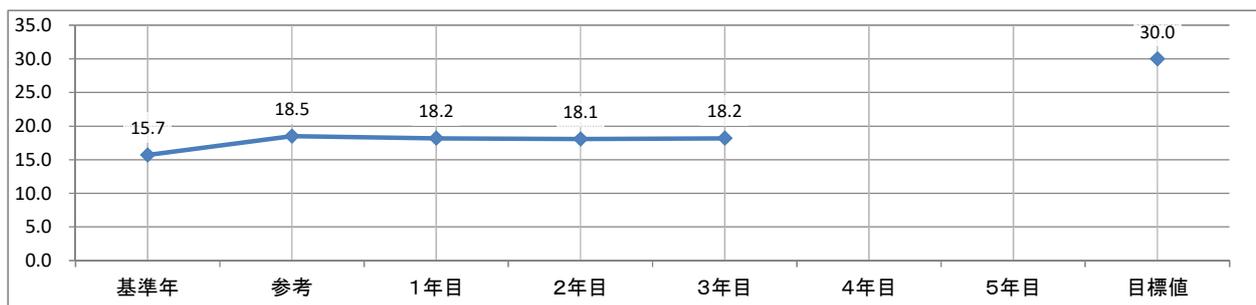
目標指標④		集落営農組織数(年度末時点)							指標の単位	組織	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績		134	133	130	129	130			140	-66.7%
計画			-	137	138	140					



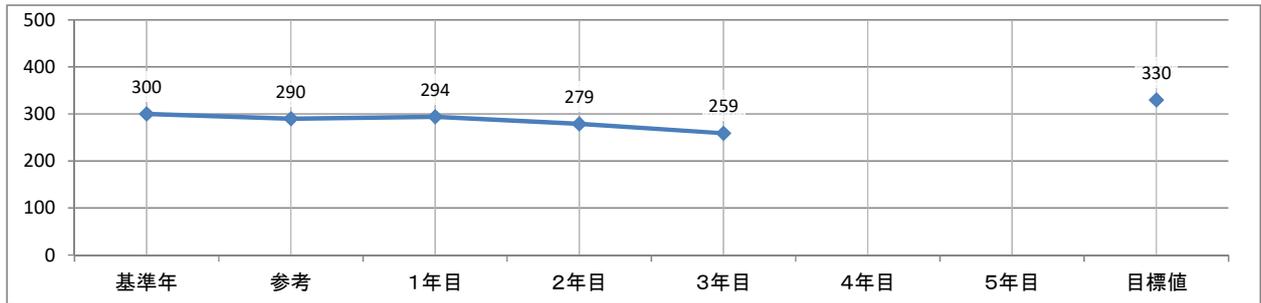
目標指標⑤		家族経営協定締結数(年度末時点)							指標の単位	戸	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績		2,106	2,134	2,168	2,167	2,133			2,238	20.5%
計画			-	2,150	2,172	2,194					



目標指標⑥		農業委員に占める女性比率(年度末時点)							指標の単位	%	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績		15.7	18.5	18.2	18.1	18.2			30.0	17.5%
計画			-	18.7	20.7	26.1					



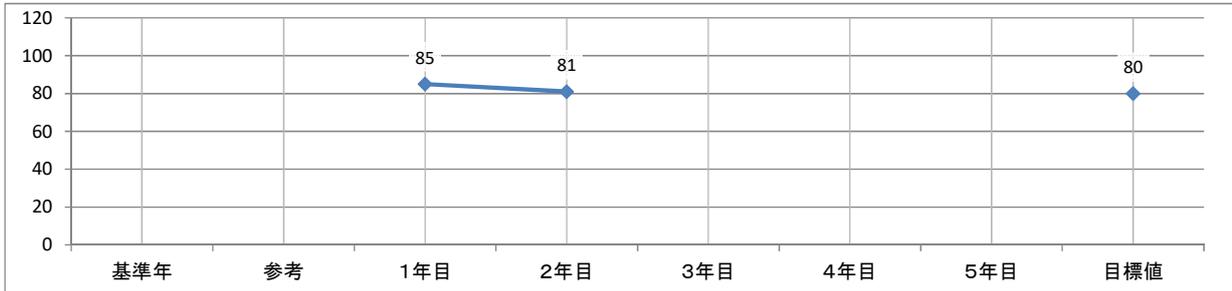
目標指標⑦		農村女性起業数(年度末時点)						指標の単位		件
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	300	290	294	279	259				
計画			-	310	315	320				



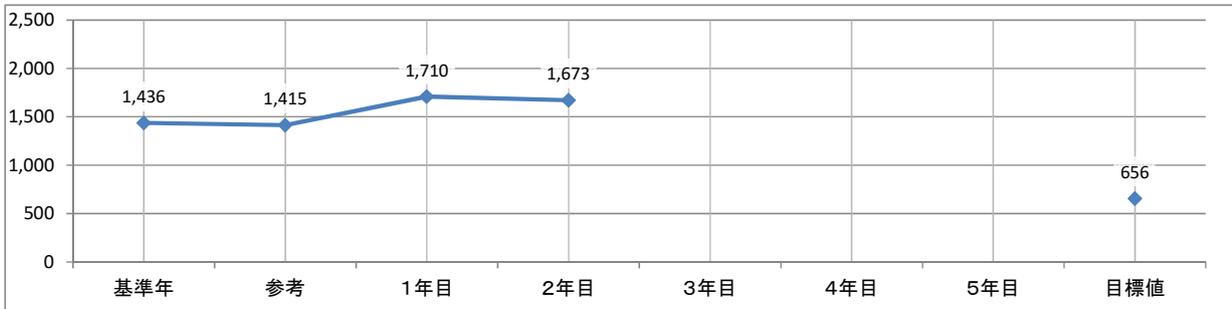
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】		
展開方向	農地利用の最適化と生産基盤の整備		
推進内容	①地域計画の策定と実現支援 ②遊休農地の発生抑制と再生支援 ③農地制度による優良農地の確保 ④生産基盤整備の推進		
担当課	農業構造政策課、農村整備課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・人・農地プランの実質化が完了していない地域において取組を推進した。その結果、実質化が完了したプラン数は、226から244プラン(+18)に増加した。これにより、実質化された人・農地プランに基づき取組を実践している地区(集落)の割合は85%になり、目標としている80%を超える結果となった。 ・農地中間管理事業を中心とした農地集積の推進により遊休農地の発生抑制を行った。農地の出し手対策である経営転換協力金は93戸、30haの実績となり、遊休農地解消(再生支援)については、7地区、2.2haで支援した。 ・農用地区域内の農地を除外する市町村農業振興整備計画の変更協議について、農振法に基づく要件審査を適正に行った。その結果、除外面積約187haについて同意した。 ・上細井中西部地区(前橋市)ほか14地区において区画整理などの基盤整備を実施・支援し、担い手への農地集積を促進した。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・「人・農地プラン」の実質化が完了していない地域において取組を推進した。その結果、実質化が完了したプラン数は、244プランから4プラン増加し、248プランとなった。一方、実質化された「人・農地プラン」に基づき取組を実践している地区(集落)の割合は81%になり、目標としている80%を超える結果となった。 ・農地中間管理事業を中心とした農地集積の推進により遊休農地の発生抑制を行った。農地中間管理機構によって約192haの農地が新たに担い手に集積された。遊休農地解消(再生支援)については、6地区、2.8haで支援した。 ・農用地区域内の農地を除外する市町村農業振興整備計画の変更協議について、農振法に基づく要件審査を適正に行った。令和4年度は5年に1度の基礎調査に基づく見直しにより山林化した農地などの除外が約1,113haがあったため、除外全体面積が約1,461haと前年度(約187ha)より大幅に増加した。 ・上細井中西部地区(前橋市)ほか14地区において区画整理などの基盤整備を実施・支援し、担い手への農地集積を促進した。
	R5 (3年目)	B	【成果】 ・令和4年度末にて、実質化された人・農地プランに基づき取組を実践している地区(集落)の割合は81%となり、令和7年度目標値である80%を前倒して達成した。 ・令和5年度は、農地中間管理事業により184haの農地が新たに担い手に集積したことで、遊休農地の発生抑制につながった。また、遊休農地再生利用事業等を活用して、5地区、計1,776haの遊休農地を解消し、農地として再生利用を図った。 ・農用地区域内の農地を除外する市町村農業振興整備計画の変更協議について、農振法に基づく要件審査を適正に行った。令和4年度から行われている5年に1度の基礎調査に基づく見直しが引き続き令和5年度もあり、山林化した農地などの除外が約230haがあった。また、都市計画の随時見直し(市街化区域編入等)による除外が約186haあった。このため、除外全体面積が約564haとなり、例年実績(おおむね280ha程度)よりも大幅に増加した。 ・上細井中西部地区(前橋市)ほか15地区において区画整理などの基盤整備を実施・支援し、担い手への農地集積を促進した。
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

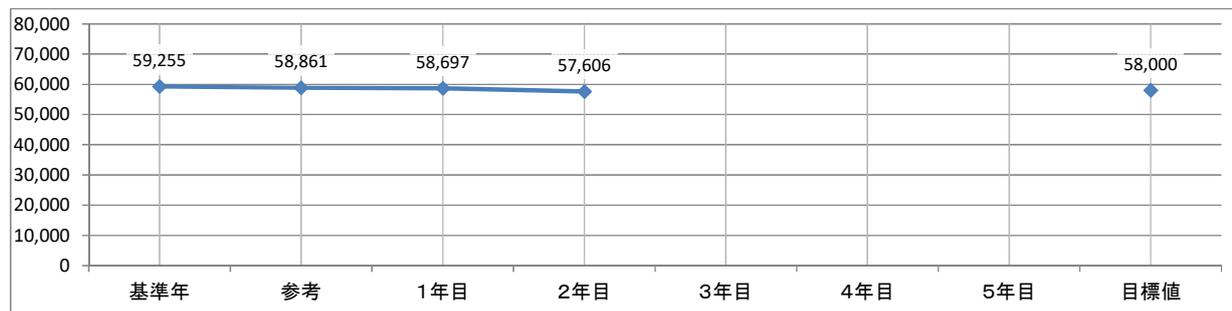
目標指標①		地域計画又は実質化した人・農地プランに基づき取組を実践している地区(集落)の割合							指標の単位 %	
実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	—	—	85	81	目標達成済				80
計画	—	—	40	50	R4調査終了					



目標指標②		再生可能な遊休農地(1号)面積(荒廃農地調査は廃止、計画面積は変更なし)							指標の単位 ha	
実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	1,436	1,415	1,710	1,673	未公表				656
計画	—	—	1,176	1,046	916					



目標指標③		農用地区域内の農地(耕地)面積							指標の単位 ha	
実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	59,255	58,861	58,697	57,606	未公表				58,000
計画	—	—	58,837	58,628	58,418					



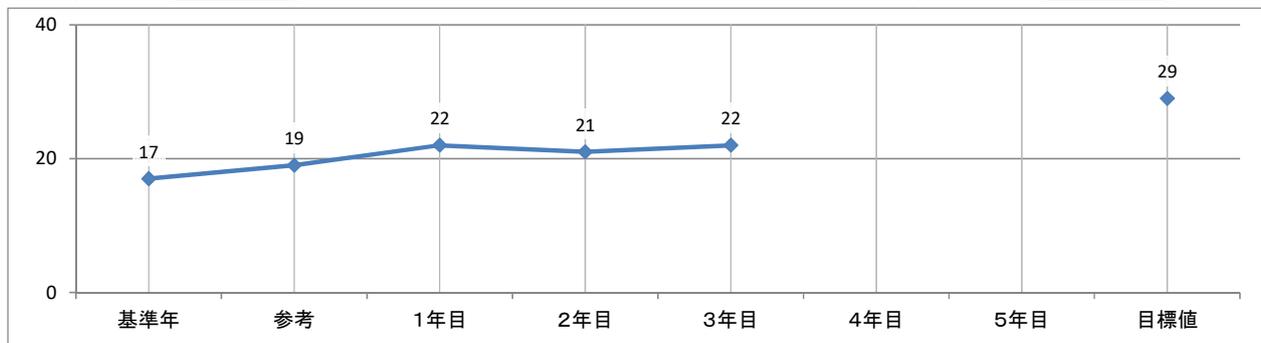
目標指標④		生産基盤整備事業を契機に担い手へ集積する農地面積						指標の単位		ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	332	397	433	460	499					517
計画		—	395	448	500						



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	未来につながる担い手確保と経営基盤の強化【人・農地】		
展開方向	農地・農業水利施設の適切な保全管理の推進		
推進内容	①農業水利施設の保全による農業用水の安定供給 ②農地・農業用施設の保全		
担当課	農村整備課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	A	【成果】 ・大正用水3期地区(前橋市・伊勢崎市)ほか4地区において、水路、揚水機の更新(0.4km、2基)及び隧道の補修を実施し施設の長寿命化を図り、内3地区を完了させた。また、佐波新田用水第1、第2(伊勢崎市・太田市)及び藤川用水2期地区(邑楽町)の3地区において、農業水利施設の長寿命化対策に着手した。 ・多面的機能支払交付金に取り組む281組織(うち広域化8組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・大正用水3期地区(前橋市・伊勢崎市)ほか6地区において、水路(0.7km)及び附帯設備の更新・補修を実施し施設の長寿命化を図った。また、坂東大堰2期(前橋市ほか3市、1町)、美野原3期(中之条町)、追貝平1期地区(沼田市)及び利根加用水2期地区(千代田町、館林市)の4地区において、農業水利施設の長寿命化対策に着手した。 ・多面的機能支払交付金に取り組む276組織(うち広域化9組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。
	R5 (3年目)	A	【成果】 ・大正用水3期地区(前橋市・伊勢崎市)ほか8地区において、水路(1.2km)及び附帯設備の長寿命化を図る補修・更新などの保全対策工事を実施し、1地区を完了させた。また、長寿命化を進めるため、新たに神流川用水地区(藤岡市)の対策に着手した。 ・多面的機能支払交付金に取り組む285組織(うち広域化11組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。 【課題】 ・対策工事は農閑期の限定された期間に行うため、施設を管理する土地改良区と調整し営農に支障が出ないよう工事を計画する必要がある。 ・活動組織の構成員の高齢化により、取組を断念する組織が増えているため、広域化による作業や事務負担の軽減、土地改良区による事務支援などが求められている。
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

目標指標①		基幹農業水利施設の長寿命化対策工事を完成させる地区数							指標の単位	地区
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	17	19	22	21	22				
計画		-	21	23	22					

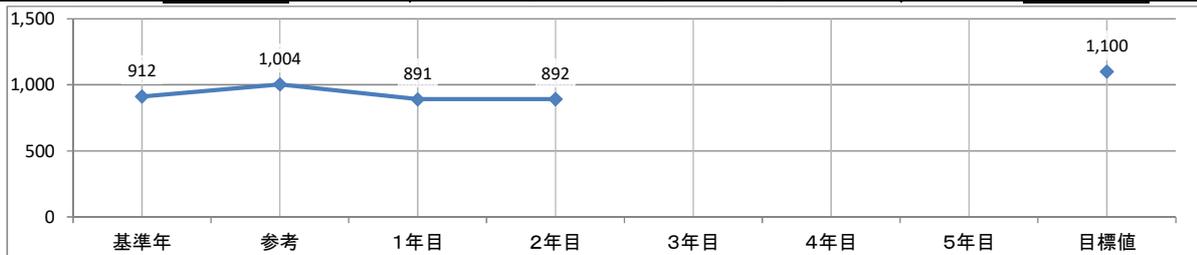


群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

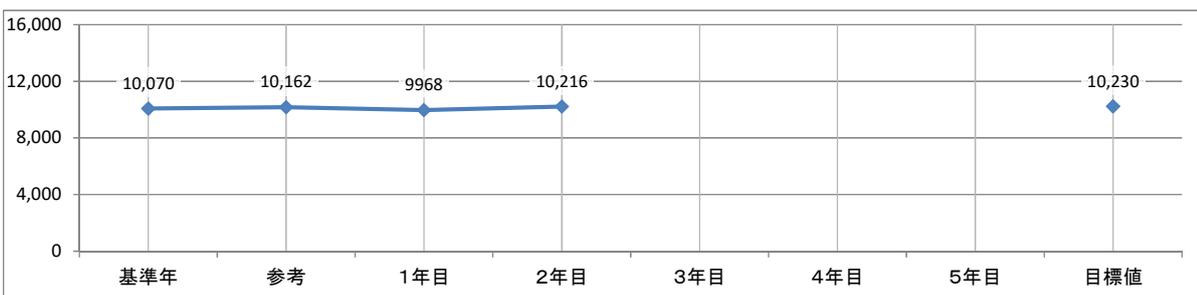
施策の柱	次世代につながる収益性の高い農業の展開【収益性向上】		
展開方向	ニューノーマルにおける園芸産地等の競争力強化		
推進内容	①担い手が育つ「儲かる野菜経営と活気ある野菜産地」の実現 ②世界で戦えるこんにやく産地の育成 ③競争力ある産地の育成と生産基盤の強化(果樹、花き、菌床きのこ)		
担当課	野菜花き課、蚕糸特産課、林業振興課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「野菜王国・ぐんま」総合対策により、重点8品目の規模拡大、生産性の向上を図るとともに産地PRを行った。対象者:57者(施設整備16者 機械導入34者(両方導入2者) ソフト事業9件) 補助金額125,384千円(事業費511,139千円) 財政事業が厳しい中、野菜安定価格事業の交付予約数量は、244,265トンと前年度と同数量を維持した。 世界で戦えるこんにやく総合対策事業により、機械導入補助を実施し、こんにやく生産者の生産基盤強化を図った。 対象者9名(ブームスプレーヤ、生子植付機、拾い上げ機など)、補助金額6,064千円 観光果樹の振興に向けて、ウェブ版果樹園マップ「味覚あふれるぐんまのくだもの園」を開設し、消費者へのPRを図った。また、県育成りんご新品種「紅鶴」のキャッチフレーズを募集、決定し、今後のPRに向けた体制を整えた。 花き生産の技術対策については、パラ環境制御技術活用事例集を作成し、技術のマニュアル化を図った。販売対策として、吾妻スプレーマム、六合の花、片品アジサイ、富岡ペゴニアの産地PR動画を制作した。消費拡大対策では、プライダル業界と連携した県産花き活用促進事業等を実施した。 菌床きのこの安定生産を図るため、オガ粉等の生産資材の確保を支援しました。また、きのこ生産の省力化、効率化を図るための施設整備の導入に支援しました。さらに、林業試験場と連携して新品目のきのこの育成技術の確立に取り組んだ。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「野菜王国・ぐんま」総合対策により、重点8品目の規模拡大、生産性の向上を図るとともに産地PRを行った(対象者:35者(施設整備15者 機械導入15者(両方導入0者) ソフト事業5件)、補助金額133,330千円(事業費534,275千円))。また、野菜安定価格事業の交付予約数量は、244,265トンと前年度と同数量を維持した。 「持続的なこんにやく生産を支える総合対策」により、機械導入を支援し、生産基盤の強化による産地育成を図った。(対象者:11名、補助金額:6,430千円) 県育成りんご新品種「紅鶴」のプレビューイベントを高崎駅で実施したほか、インスタグラムを開設して「ぐんまのりんご」をPRした。また、果樹経営系支援対策事業を活用し、優良品種への転換や新植を支援し、収益力の向上を図った。(対象者:24名、面積:2.8ha<累計46.6ha>) コロナ禍により生じた花きの需要変化を探るため、民間シンクタンクに調査を委託したところ、今後の展望と改善方策が明らかになった。また、消費拡大を図るため、県産花きの展示会や高校生フラワーアレンジメントコンテストを実施した。 燃料価格高騰対策として、施設園芸セーフティネット構築事業の加入促進を図り、省エネ資材の導入経費を補助する事業を創設した(施設園芸セーフティネット構築事業 加入者536戸(加入率39%)、施設園芸省エネ転換緊急対策事業 事業実施主体数20団体(208戸)、補助金額116,556千円)。 菌床きのこの生産資材(オガ粉等)の調達経費について、きのこ生産に支援した。また、きのこ生産にあたり省力化・効率化を図るための施設整備に支援した。 林業試験場と連携して新品目のきのこ育成技術の確立に取り組んだ。
	R5 (3年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「野菜王国・ぐんま」総合対策により、重点8品目の規模拡大、生産性の向上を図るとともに産地PRを行った(対象者:53者(施設整備・機械導入49者、ソフト事業4件)、補助金額131,697千円(事業費571,947千円))。また、野菜価格安定事業の交付予約数量は、247,375トンと前年比+3,110トンとなった。 燃料価格高騰対策として、施設園芸セーフティネット構築事業の加入促進を図り、省エネ資材の導入経費を補助する事業を創設した(施設園芸セーフティネット構築事業 加入者547戸(加入率40%)、施設園芸省エネ転換緊急対策事業 事業実施主体数19団体(95戸)、補助金額67,713千円)。 「持続的なこんにやく生産を支える総合対策」により、機械導入を支援し、生産基盤の強化による産地育成を図った。(対象者:6名、補助金額:4,088千円) こんにやく芋生産者、精粉製造業者、加工品製造業者の3者による意見交換会や消費拡大活動を実施し、関係者が連携した生産振興及び消費拡大を推進する体制づくりができた。 観光果樹の振興に向けて、ウェブ版果樹園マップ「味覚あふれるぐんまのくだもの園」を通じて、消費者へ県内の果樹園情報を提供した。また、県育成りんご新品種「紅鶴」のデビューイベントを道の駅まえばし赤城において開催するとともに、SNSやFMぐんまを活用した「紅鶴」応援プロジェクトを実施し、新品種の知名度を向上させるとともに、県内果樹園の魅力をPRした。また、果樹経営系支援対策事業を活用し、優良品種への転換や新植を支援し、収益力の向上を図った。(対象者:6名、面積:2.2ha<累計48.8ha>) 県産花きの消費拡大を図るため、「ぐんま花フェス」として、高校生フラワーアレンジメントコンテストや社会人向けフラワーアレンジ体験教室を開催した。また、首都圏の小売店舗で、「ぐんまバラフェア」を開催したほか、スプレーマムの市場展示を実施し、県産花きの品質の高さをPRした。2024流通問題に対しては、JAを対象とした聞き取り調査と、出荷体制の見直しに向けた実証として、前々日出荷+予冷の可能性を検証した。 菌床きのこの生産資材(オガ粉等)の調達経費について支援した。また、きのこ生産の省力化、効率化を図るための施設整備の導入に支援した。さらに、林業試験場と連携して新品目のきのこの種苗登録申請を行った。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「野菜王国・ぐんま」推進計画 2020 の目標達成に向けては、規模拡大意欲のある担い手に対して「野菜王国・ぐんま」総合対策を活用した施設整備や機械導入を進める必要がある。また、みどりの食料システム戦略への対応や農業を取り巻く環境変化に適切に対応できるように「野菜王国・ぐんま」総合対策の補助の内容や要件等を随時見直していく必要がある。 野菜価格安定事業では、生産者団体からの交付予約数量の新規・増量要望に対して、十分な予算措置がとれていないため、充足のための予算要求が必要である。 花きの需要構造の変化に対応した販路拡大、若年層への消費拡大、SNSを活用した産地情報の発信等の取組が必要。流通問題では、出荷規格や輸送行程などを検討し、流通ルートの確保が必要である。 令和6年度もこんにやく芋価格の低迷が予想されることから、複合作物の導入を推進し、こんにやく芋生産者の経営安定を図る必要がある。

実各 績年 動度 向の	R6 (4年目)	【成果】
	R7 (最終年)	【課題】

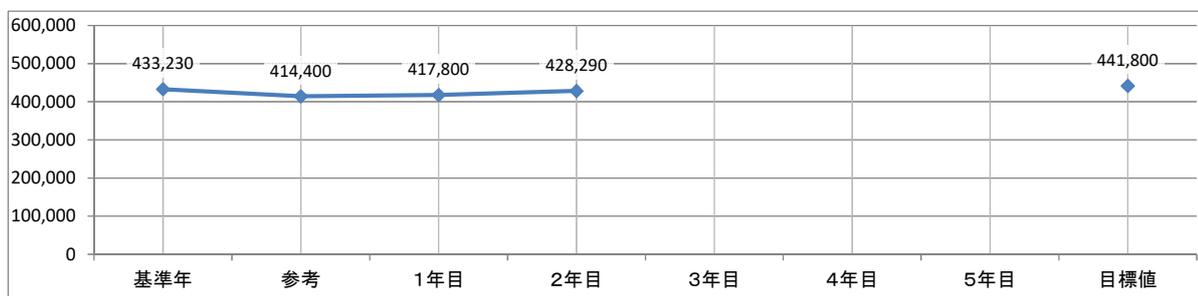
目標指標①		野菜産出額							指標の単位	億円
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績		912	1,004	891	892	未公表			
計画			-	1,042	1,061	1,074				



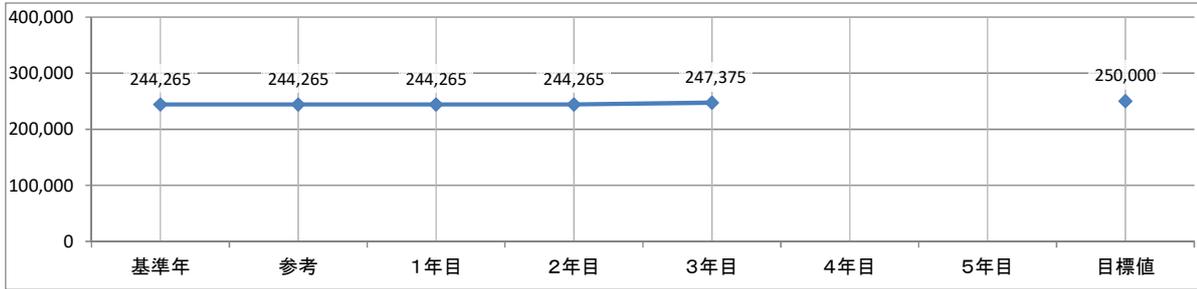
目標指標①		野菜重点8品目作付面積							指標の単位	ha
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績		10,070	10,162	9,968	10,216	未公表			
計画			-	10,018	10,045	10,073				



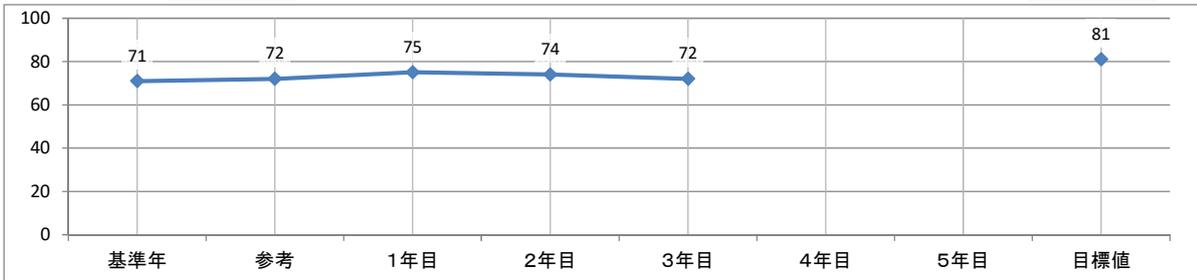
目標指標①		野菜重点8品目出荷量							指標の単位	t
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績		433,230	414,400	417,800	428,290	未公表			
計画			-	429,830	432,020	433,960				



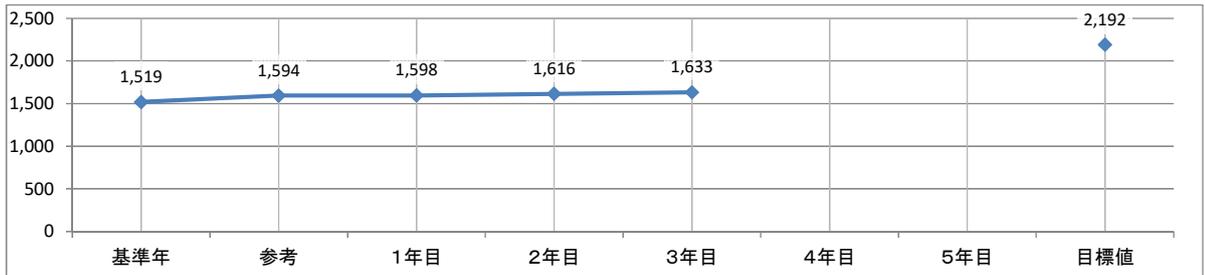
目標指標②		指定野菜価格安定制度交付予約数量							指標の単位	t	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	244,265	244,265	244,265	244,265	247,375					250,000
計画			-	245,800	247,900	248,950					



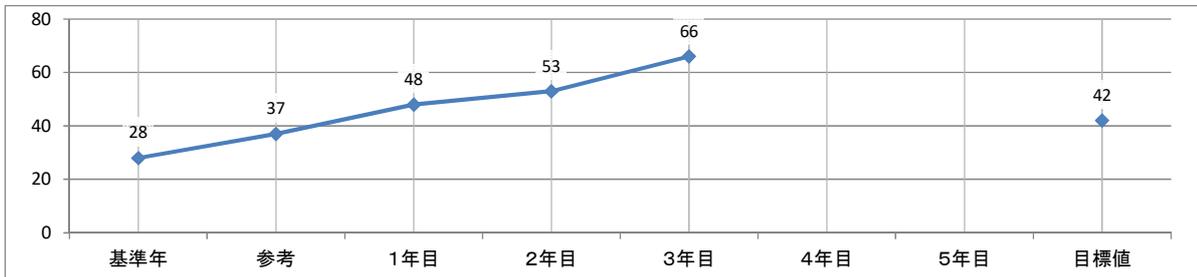
目標指標③		こんにゃく栽培面積10ha以上の農家数							指標の単位	戸	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	71	72	75	74	72					81
計画			-	74	76	78					



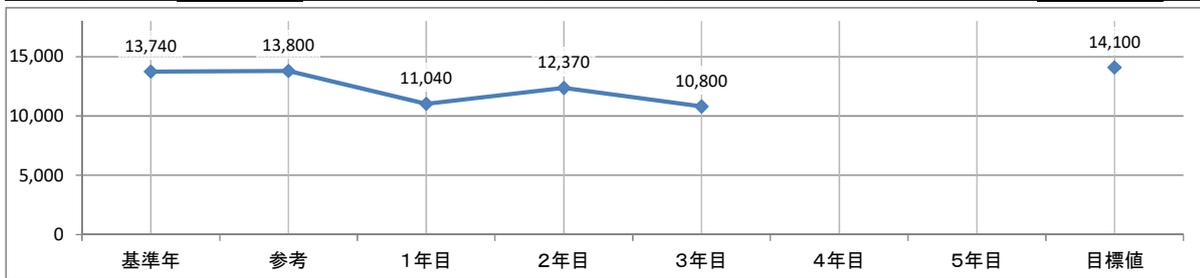
目標指標④		みやままさり栽培面積							指標の単位	ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	1,519	1,594	1,598	1,616	1,633					2,192
計画			-	1,714	1,714	1,953					



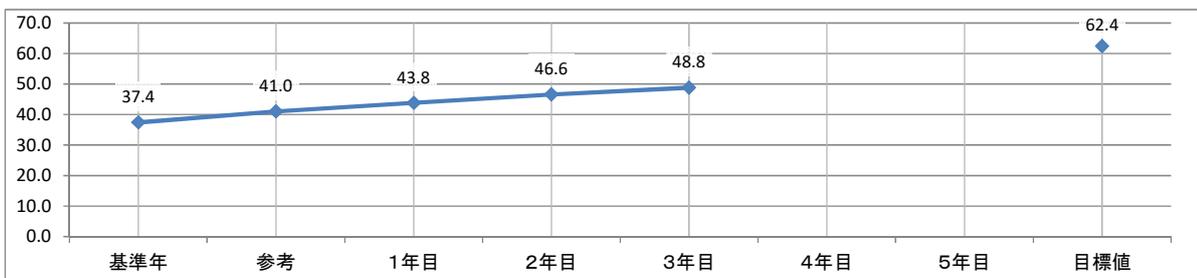
目標指標⑤		越冬栽培面積							指標の単位	ha
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	28	37	48	53	66				
計画		-	33	50	48.7					



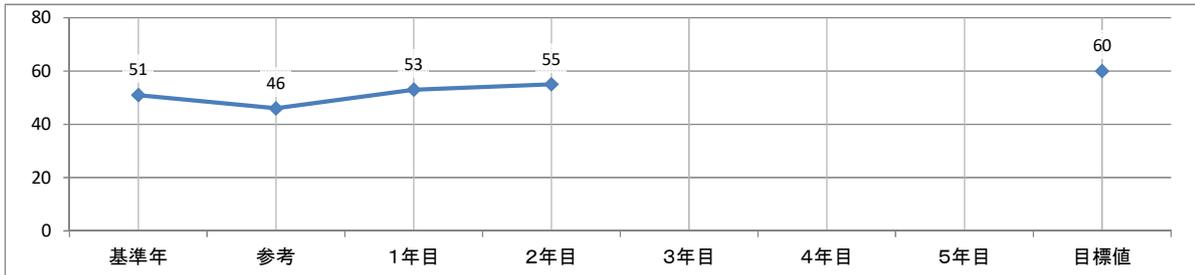
目標指標⑥		観光果樹品目収穫量(りんご、ぶどう、なし)							指標の単位	t
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	13,740	13,800	11,040	12,370	10,800				
計画		-	13,860	13,860	13,980					



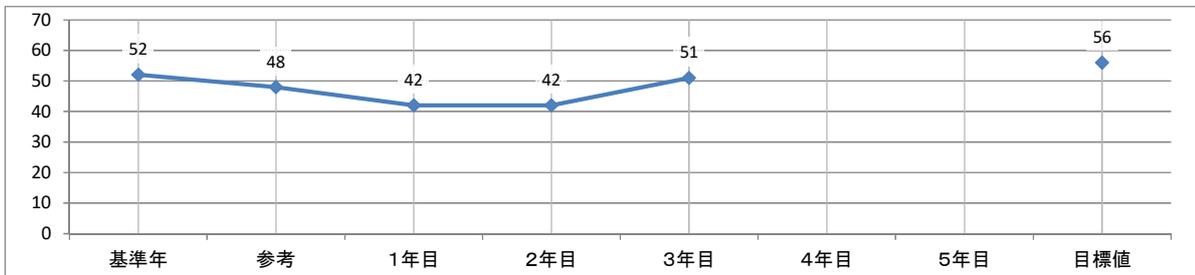
目標指標⑦		果樹改植面積(累計)							指標の単位	ha
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	37.4	41.0	43.8	46.6	48.8				
計画		-	45.6	45.6	54.2					



目標指標⑧		花き産出額						指標の単位	億円	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	51	46	53	55	R6.12月公表				
計画		-	56	56	57					



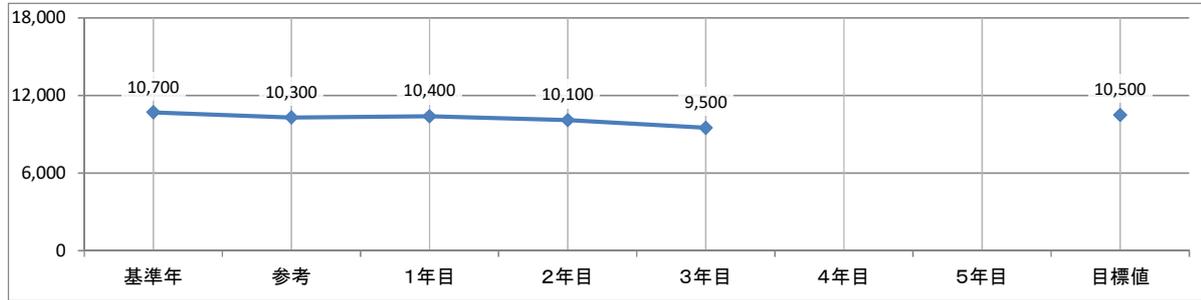
目標指標⑨		きのこ産出額						指標の単位	億円	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	52	48	42	42	51				
計画		-	53	54	55					



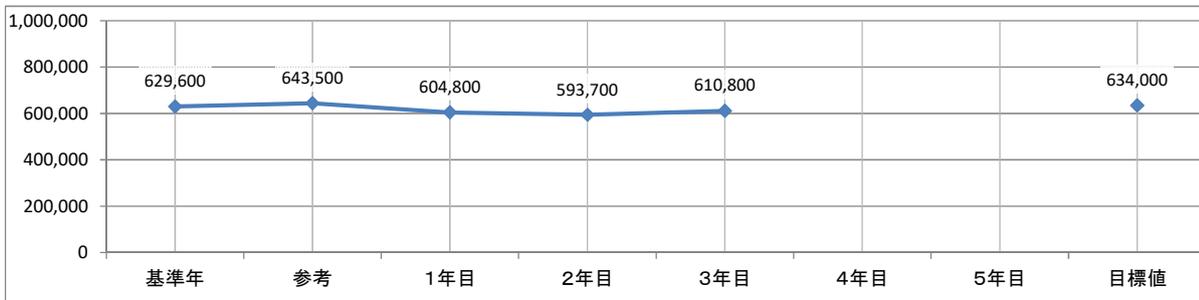
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱		次世代につながる収益性の高い農業の展開【収益性向上】	
展開方向		国際競争に打ち勝つ強靱な畜産経営の確立	
推進内容		①家畜の伝染性疾患の発生予防とまん延防止の徹底 ②生産基盤の強化と畜産物の安定供給(酪農、肉牛、養豚、養鶏、飼料作物、畜産経営) ③地域と調和した畜産経営の確立	
担当課		農政課家畜防疫対策室、米麦畜産課	
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和3年の県内の生乳生産量は208,496トンであり、1戸当たりの生乳生産量は506トンとなり、計画比の109%となった。 浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事および預託牛飼養施設の工事を実施するとともに、育成牛を計画どおりに受託し、後継牛確保の一翼を担った。 高糖分高消化性稲WCSについて、新たに耕種農家と畜産農家のマッチングが成立した。 子実とうもろこしの収穫実演会を開催し、農業者、農業団体、市町村等、関係者に栽培のメリットや課題を周知した。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 第12回全国和牛能力共進会に本県代表牛が出品し、肉牛の部で全国5位獲得をはじめ、本県出品牛としては過去最高の成績を収めた。 浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事および預託牛飼養施設の工事を実施するとともに、育成牛を計画どおりに受託することができ、後継牛確保の一助となった。 耕種農家と畜産農家とのマッチング成果などにより、高糖分高消化性稲WCSの作付面積は増加した。また、子実とうもろこしの試験栽培に取り組む農家は、前年度1戸から3戸に増加した。さらに、収穫実演会を開催し、農業者、農業団体、市町村等、関係者に栽培のメリットや課題を周知した。
	R5 (3年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家畜の伝染性疾患の発生予防及び予察のための検査を県内全域で実施し、疾病の早期発見を行った。 養豚農場での豚熱発生予防として、ワクチン接種、飼養衛生管理基準の遵守指導及び野生イノシシ対策を継続して実施した。また、養鶏場における高病原性鳥インフルエンザ発生予防として、飼養衛生管理基準の遵守指導及び消毒薬の配布を行った。 防疫演習を実施し、万が一特定家畜伝染病が発生した場合に周辺農場への拡大防止のため速やかに防疫措置が実施できる体制を整えた。 令和5年の県内生乳生産量は201,618トンであり、全国第4位となった。また、1戸当たりの生乳生産量は568トンとなり、計画比の103%となった。 浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事および預託牛飼養施設の工事を実施するとともに、育成牛を計画どおりに受託し、後継牛確保の一翼を担った。 豚飼養頭数は、近年、豚熱の発生に伴う殺処分の影響等もあり、減少傾向で推移しているが、1戸当たり飼養頭数は増加傾向であり、大規模経営農家では生産規模が拡大し、増頭が進んでいる。 県産飼料拡大・未利用資源活用対策支援事業により、飼料生産組織への機械等導入経費の補助を行い、県産飼料の増産を支援した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内の野生イノシシでは継続的に豚熱が発生しており、また、世界各国で高病原性鳥インフルエンザが発生している状況から、依然発生リスクが高い状況にある。また、韓国でのアフリカ豚熱の拡大、口蹄疫発生などにより国内発生リスクが高まっていることから、引き続き、飼養衛生管理基準の遵守等各種対策に取り組むとともに、発生時に備えた迅速な防疫措置体制を構築する必要がある。 浅間家畜育成牧場の草地整備改良工事や預託牛飼養施設等の工事の計画的な進捗管理と将来の増頭体制に向けた環境整備を図る。 県飼料増産推進協議会を開催し、飼料用とうもろこし、子実とうもろこし、稲発酵粗飼料及び浅間牧場の草地改良整備を中心とした飼料増産の具体的方策を検討する。
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

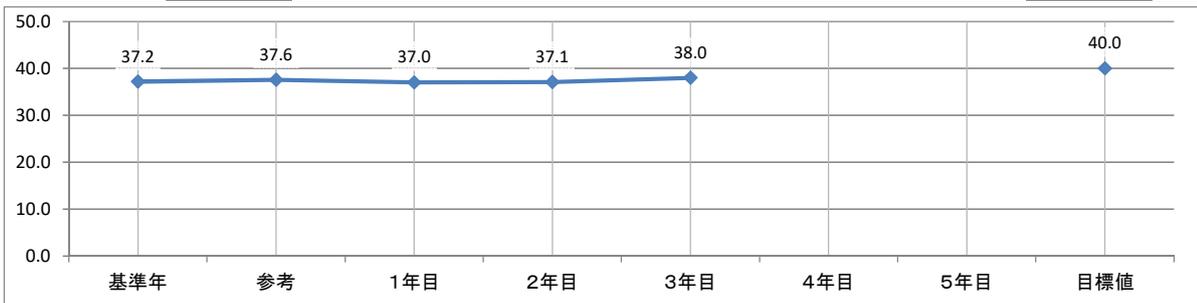
目標指標①		乳用未經産牛頭数							指標の単位	頭
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	10,700	10,300	10,400	10,100	9,500				
計画		-	-	10,400	10,450					



目標指標②		豚飼養頭数							指標の単位	頭
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	629,600	643,500	604,800	593,700	610,800				
計画		-	631,100	631,800	632,600					



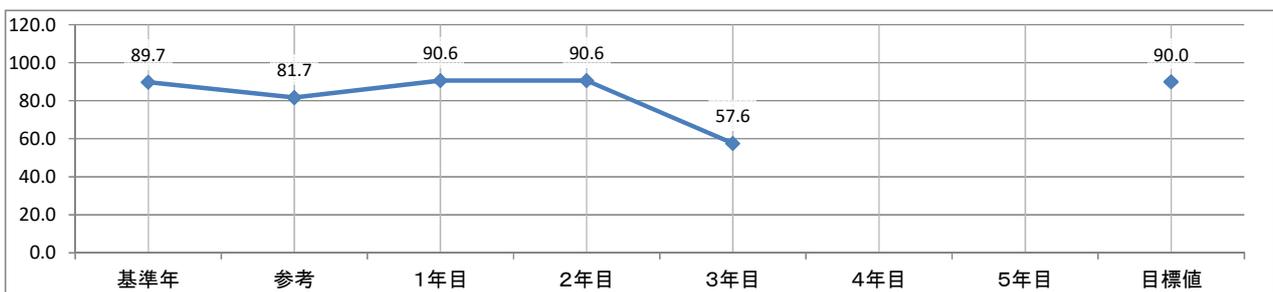
目標指標③		飼料自給率							指標の単位	%
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	37.2	37.6	37.0	37.1	38.0				
計画		-	38.1	38.6	39.1					



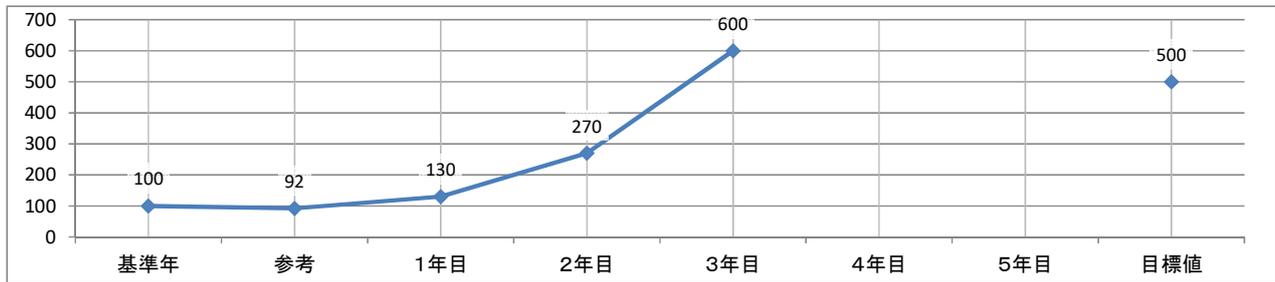
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】		
展開方向	地域の特性を生かした持続的な水田農業の展開		
推進内容	①売れる米づくりの推進 ②水田における高収益作物等の作付拡大 ③ニーズに応じた高品質な麦生産		
担当課	米麦畜産課農産振興室		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・平坦地域では、良食味で高温登熟性に優れた水稲品種「いなほっこり」や「にじのきらめき」の作付けを推進するため、実証ほの設置等により、安定生産技術の確立に取り組んだ。作付面積は130haとなり、今後も増加する見込みである。 ・中山間地域では、地域の特色を生かした高品質米生産を支援し、地域ブランド米の作付拡大を図った。作付面積は345haとなり、年々増加傾向である。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・水稲うるち玄米の1等比率は、概ね90%程度確保できている。 ・平坦地域では、良食味で高温登熟性に優れた水稲品種「いなほっこり」や「にじのきらめき」の作付けを推進するため、実証ほの設置等により安定生産技術の確立に取り組んだ。作付面積は270haとなり、今後も増加する見込みである。 ・中山間地域では、地域の特色を生かした高品質米生産を支援し、地域ブランド米の作付拡大を図った。作付面積は397haとなり、年々増加傾向である。 ・小麦「ゆめかおり」のタンパク質含量の目標値である13.0%は達成できていないが、基準値である11.5%以上はクリアできており、品質評価基準はAランクが確保できている。
	R5 (3年目)	B	【成果】 ・水稲うるち玄米の1等比率は、令和5年産の夏の記録的な猛暑により白未熟粒等が多発し、著しく低下した。 ・平坦地域では、高温登熟耐性に優れた水稲品種「いなほっこり」や「にじのきらめき」の作付けを推進するため、実証ほの設置等により安定生産技術の確立に取り組んだ。作付面積は600haとなり、今後も増加する見込みである。 ・中山間地域では、地域の特色を生かした良食味・高品質米生産を支援し、地域ブランド米の作付拡大を図った。作付面積は411haとなり、年々増加傾向である。 ・小麦「ゆめかおり」のタンパク質含量は、加重平均では12.3%で、基準値である11.5%以上は確保出来ているが目標値である13.0%は達成できていない。 【課題】 ・水稲品種「にじのきらめき」は、高温登熟耐性は高いが、刈り取り適期が短く、品質のムラが大きい傾向が見られる。品質安定に向けた栽培手法の確立を図るとともに、今後の作付動向を判断し、県内採種ほ場設置の有無を判断する。 ・地域ブランド米の作付面積は増加傾向であるが、担い手の高齢化や販路の確保が課題となっている。 ・製パンに適するよう、小麦「ゆめかおり」はタンパク質含量を確保しやすい畑での作付けを推進してきたが、連作障害の発生により、生産が不安定になりやすく、生産量も限られるという課題がある。実需要を受けて生産量を確保するためには、水田での作付けを進める必要があるが、高タンパク質含量を確保するための栽培管理の徹底が必要である。
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

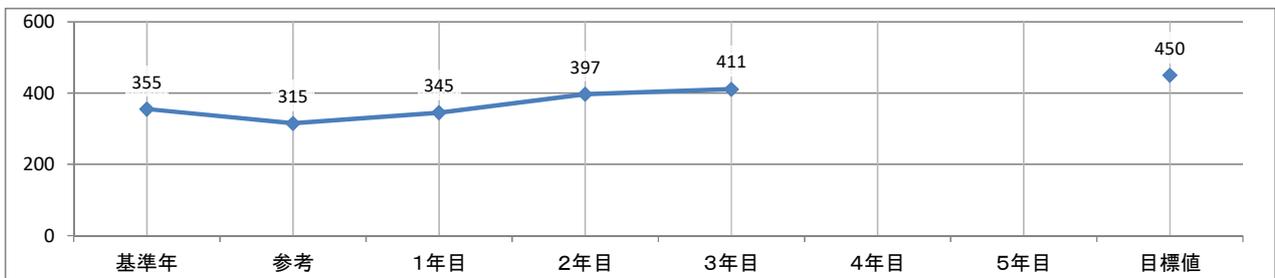
目標指標①		うるち玄米一等比率						指標の単位	%	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績		89.7	81.7	90.6	90.6	57.6			90.0
計画			-	90.0	90.0	90.0				



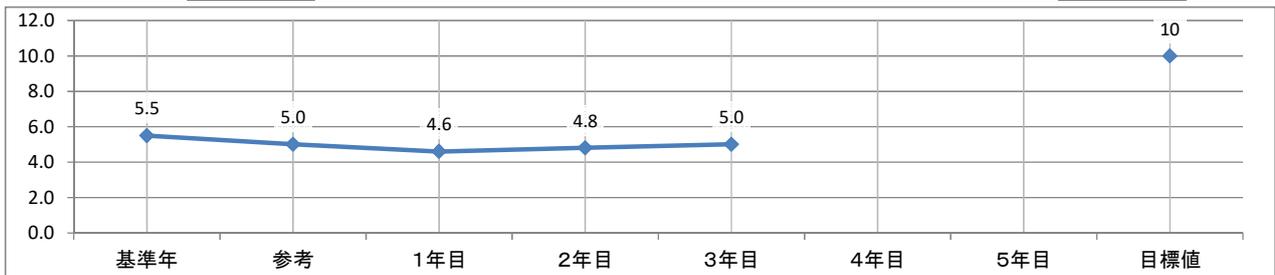
目標指標②		「いなほっこり」等作付面積							指標の単位	ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	100	92	130	270	600					500
計画		-	120	225	315						



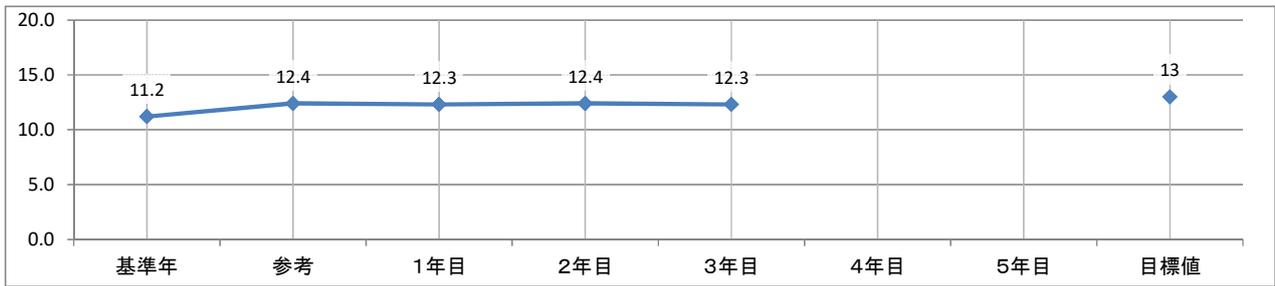
目標指標③		ブランド米作付面積							指標の単位	ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	355	315	345	397	411					450
計画		-	390	360	420						



目標指標③		「さとのそら」の農産物検査数量割合							指標の単位	%	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	5.5	5.0	4.6	4.8	5.0					10
計画		-	6.0	6.0	8.0						



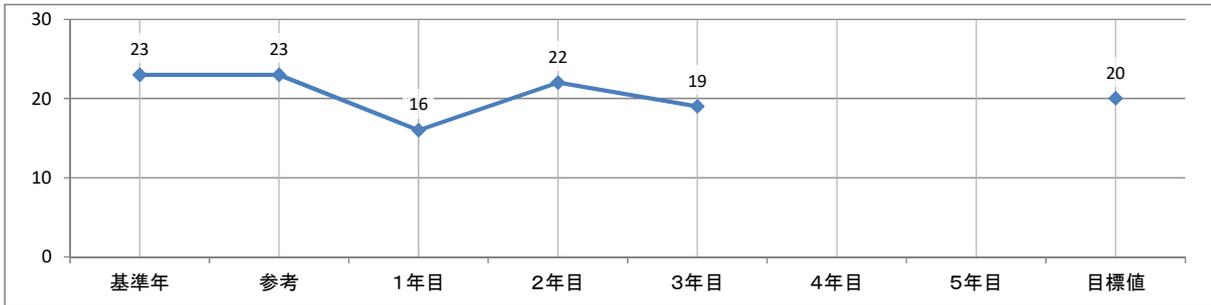
目標指標③		「ゆめかおり」のタンパク質含有率							指標の単位	%	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	11.2	12.4	12.3	12.4	12.3			13		61.1%
計画		-	13	13.0	13.0						



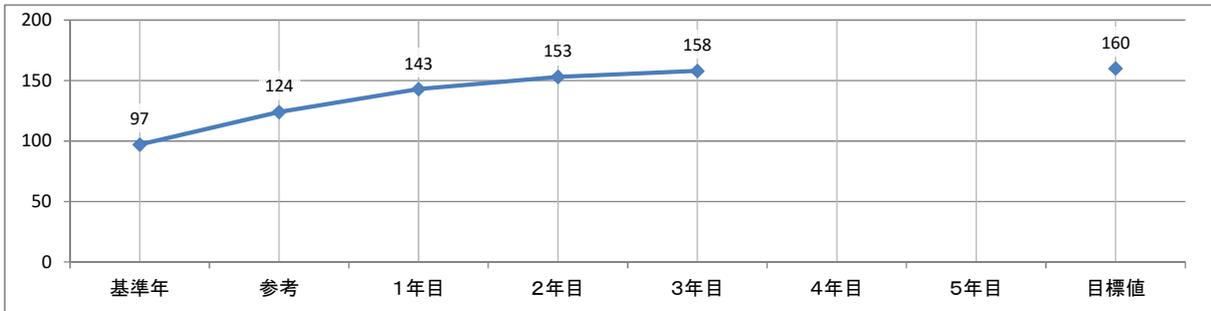
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】		
展開方向	DXを背景としたスマート農業等の新技術や新品種の研究開発と普及促進		
推進内容	①地域に根ざした技術開発の推進 ②産地の将来を見据えたスマート農業技術の普及促進		
担当課	米麦畜産課農産振興室、野菜花き課技術支援室		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんま農業研究基本計画」の5つの重点目標に基づいて、生産現場や消費者ニーズ等を踏まえた技術開発に取り組み、令和3年度はぐんま農業新技術として5件、普及員指導資料として11件の研究成果を取りまとめた。 ＜主な成果＞ <ul style="list-style-type: none"> ・ 嬬恋村のキャベツ栽培における適正なリン酸施肥量の解明 ・ 軽量化した回転族と尿受器の製作 ・ ドローンを利用したコクチバス産卵床の探索 ・ ネット式脱臭装置による臭気対策技術 ・ イチゴ、バラで環境制御技術の普及実証ほを設置し、得られた環境測定データから、生育や収量への影響を解析することができた。 ・ 米麦部門のスマート農業技術は71戸の経営体で導入され、目標値を達成した。
	R4 (2年目)	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんま農業研究基本計画」の5つの重点目標に基づいて、生産現場や消費者ニーズ等を踏まえた技術開発に取り組み、令和4年度はぐんま農業新技術として10件、普及員指導資料として12件の研究成果を取りまとめた。 ＜主な成果＞ <ul style="list-style-type: none"> ・ 低コスト・省力化が可能なブドウY字樹形の開発 ・ 電動剪定ばさみの活用による桑収穫作業の省力化と疲労軽減 ・ 禁漁区の設定による溪流魚の増殖 ・ ゲノミック評価を活用した黒毛和種の24ヵ月齢出荷技術 ・ イチゴ、バラにおいて環境制御技術、ICT活用の普及実証ほを設置し、環境測定データや生育データの見える化を進めるとともにクラウドを利用した農家との情報共有を行った。また、得られたデータをもとに、農家との実績検討会、勉強会を開催した。 ・ 米麦部門のスマート農業技術は79戸の経営体で導入された。
	R5 (3年目)	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「ぐんま農業研究基本計画」の5つの重点目標に基づいて、生産現場や消費者ニーズ等を踏まえた技術開発に取り組み、令和5年度はぐんま農業新技術として6件、普及員指導資料として13件の研究成果を取りまとめた。 ＜主な成果＞ <ul style="list-style-type: none"> ・ ブドウ「シャインマスカット」の糖度予測およびアプリの開発 ・ 上簇前の網入れ適期判定技術 ・ 戻し交配によるアユ新系統「江戸川系ver.2」の作出 ・ サイレージ用トウモロコシにおける子実利用向け適正品種 ・ イチゴ、バラにおいて環境制御技術、ICT活用の普及実証ほを設置し、環境測定データや生育データの見える化を進め、クラウドを利用した農家との情報共有を行った。また、得られたデータをもとに、農家との実績検討会、勉強会を開催した。実証農家では、クラウド上のデータ活用の姿勢がみられ、前年に比べて生育、収量が向上する事例がみられた。 ・ 米麦部門のスマート農業技術は102戸の経営体で導入され、目標値を達成した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 着実に研究成果を出すために研究の進捗管理を強化する。 ・ 環境制御機器を導入する農家が増えるなか、環境測定データの効果的な活用を進めていくため、指導者の育成が必要である。
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

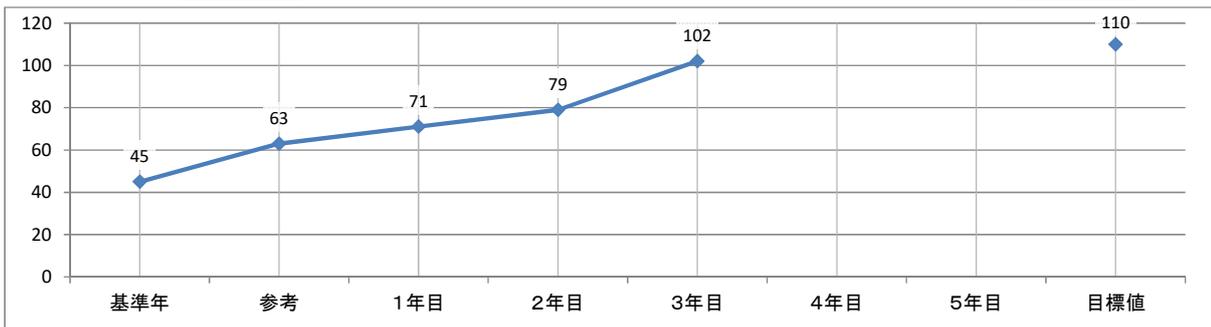
目標指標①		ぐんま農業新技術・技術情報資料の件数							指標の単位	件	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	23	23	16	22	19					20
計画		23	-	20	20	20					



目標指標②		施設園芸における環境制御技術導入農家数							指標の単位	戸	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	97	124	143	153	158					160
計画		97	-	130	148	156					



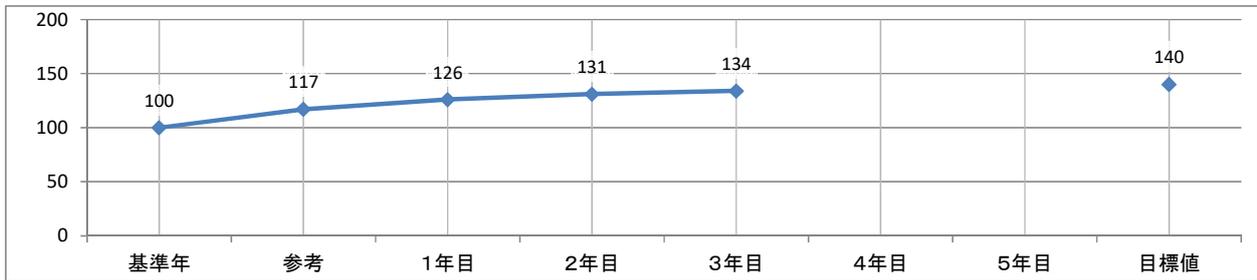
目標指標③		水田作におけるスマート農業機械導入農家数							指標の単位	戸	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	45	63	71	79	102					110
計画		45	-	65	75	81					



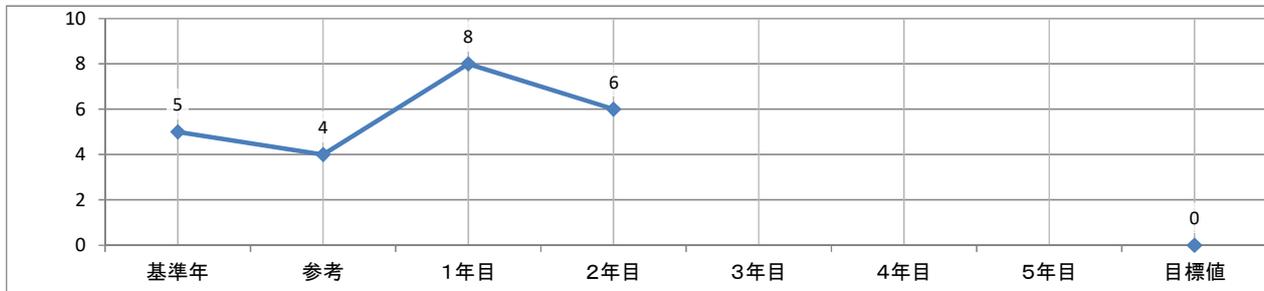
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	次世代につなぐ収益性の高い農業の展開【収益性向上】		
展開方向	農業経営の安定化に向けたリスクマネジメントの強化		
推進内容	①農業生産工程管理(GAP)の導入推進 ②農作業安全対策の推進 ③セーフティネットの強化による農業経営の安定 ④家畜の伝染性疾患の発生予防とまん延防止対策の徹底(再掲)		
担当課	農政課家畜防疫対策室、米麦畜産課農産振興室、野菜花き課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内農業者に対するGAP手法の理解や取組を広めるため、GAP導入講演会を開催するとともに、第三者認証取得を目指す生産組織等に対し支援を行った。また、普及指導員を対象に、指導者養成研修を開催し、GAP導入を支援する指導者の育成を図った。 県警、JA中央会、JA全農ぐんま、農業機械商組合、市町村会、県関係機関を構成員とした「群馬県農作業事故防止・農業機械化推進会議」を令和3年7月に立ち上げた。これにより関係機関との情報共有・連携が強化された。 令和4年1～3月に日本農業機械化協会の協力により「農作業安全に関する指導者向け研修会」を開催し、農作業安全指導員90名を育成した。 園芸施設共済の加入推進を図った。また、農業者ごとの収入減少を総合的に補てんする収入保険制度を推進した結果、1,437経営体が加入した。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内農業者に対するGAP導入講演会を開催するとともに、GAPに取り組む生産組織等を支援した。また、普及指導員を対象に指導者養成研修を開催し、指導者の育成を図った。 本県のGAPを国際水準GAPの取組へと引き上げを図るため、国際水準GAPガイドラインに対応したチェックシートを作成した。 関係機関と連携し、春と秋の農繁期に農作業安全確認運動を展開し、農作業安全に関する啓発活動(講習会のべ329回、参加者のべ6,175人)を行った。また、令和4年12月～令和5年3月に「農作業安全指導者向け研修」を開催し、農作業安全指導員75名を育成した。 農業者ごとの収入減少を総合的に補てんする収入保険制度を推進した結果、1,609経営体(R5.1月時点)が加入した。また、園芸施設共済の加入推進を図った。
	R5 (3年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 普及指導員を対象に指導者養成研修を開催し、指導者の育成を図るとともに、GAPに取り組む生産組織等を支援した。また、団体認証の取得を促すため、JA職員向けのGAP研修会を開催した。 関係機関と連携し、春と秋の農繁期に農作業安全確認運動を展開し、農作業安全に関する啓発活動(講習会のべ280回、参加者のべ8,435人)を行った。 令和5年4月～令和6年3月に「農作業安全指導者向け研修」を開催し、農作業安全指導員174名を育成した。 家畜の伝染性疾患の発生予防及び予察のための検査を県内全域で実施し、疾患の早期発見を行った。 養豚農場での豚熱発生予防として、ワクチン接種、飼養衛生管理基準の遵守指導及び野生イノシシ対策を継続して実施した。また、養鶏場における高病原性鳥インフルエンザ発生予防として、飼養衛生管理基準の遵守指導及び消毒薬の配布を行った。 防疫演習を実施し、万が一特定家畜伝染病が発生した場合に周辺農場への拡大防止のため速やかに防疫措置が実施できる体制を整えた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 現場での国際水準GAPに対する理解を深めるとともに、取組に向けた支援、県GAPチェックシートの見直しが必要である。また、GAP認証農産物に対する実需者ニーズの高まりに対応する必要がある。 高齢者の農作業死亡事故は高止まり傾向にあり、啓発活動の情報が届かない高齢者層に対する働きかけを考える必要がある。 県内の野生イノシシでは継続的に豚熱が発生しており、また、世界各国で高病原性鳥インフルエンザが発生している状況から、依然発生リスクが高い状況にある。また、韓国でのアフリカ豚熱の拡大、口蹄疫発生などにより国内発生リスクが高まっていることから、引き続き、飼養衛生管理基準の遵守等各種対策に取り組むとともに、発生時に備えた迅速な防疫措置体制を構築する必要がある。
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

目標指標		GAPの取組組織数						指標の単位	組織	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	100	117	126	131	134			140	
計画		-	108	116	133					



目標指標②		農作業死亡事故件数						指標の単位	人	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	5	4	8	6	未公表			0	
計画		-	0	0	0					

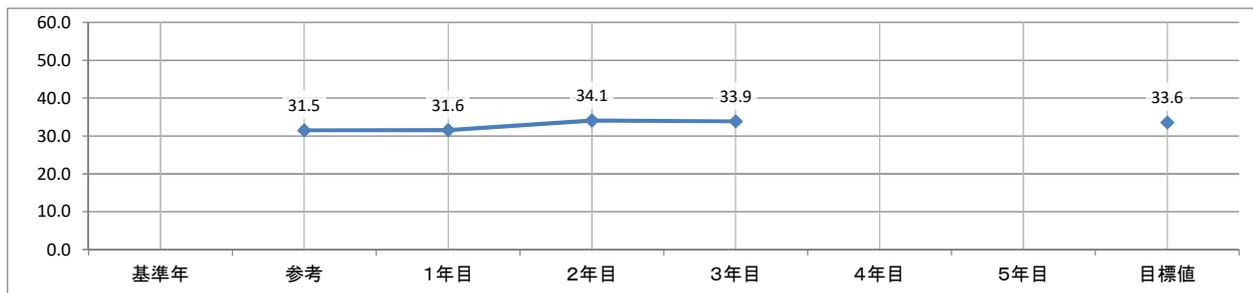


群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

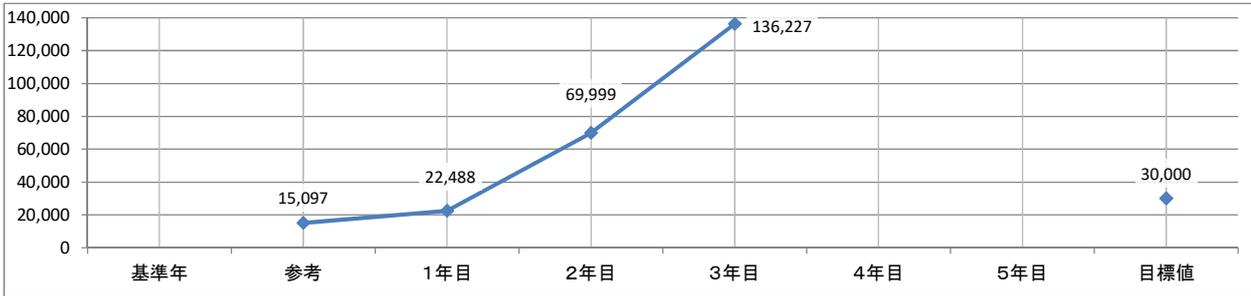
施策の柱		豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】	
展開方向		県産農畜産物の「強み」を生かした魅力発信と需要拡大	
推進内容		①新たな品種・品目のブランド化に向けた取組 ②産地としての群馬県のイメージ向上 ③6次産業化活動の支援	
担当課		ぐんまブランド推進課	
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県育成品種のりんご4品種について、G-アナライズ&PRチームでの分析により強みや特徴を見だし、結果をレポートに取りまとめ、首都圏で開催した県産りんごを活用した料理教室等で配布し、理解促進を図った。また、分析結果を抜粋したポスターを作成して全りんご農家に配布することで、生産現場へのフィードバックを図った。 ・民間企業と連携し、首都圏で県産農畜産物を食材として使用した料理教室を117回(1,628人)開催しました。料理という体験を通して、さらには教室を生産者リモートでつなぐなどの工夫により県産食材の理解促進と認知向上を図った。 ・上州地鶏については、G-アナライズ&PRチームの分析結果を踏まえ、機能性表示食品の届出を目指すことを決定し、品質安定化に向けた取組とデータ構築に着手した。 ・食品メーカー等との共同企画による県産農畜産物の消費拡大キャンペーンを3回実施(延べ503店舗)し、産地イメージの向上に努めた。 ・「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物、加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は200品目にまで拡大した。 ・コロナ禍で売上額が減少している生産者向けに、産直ECサイトを活用した県産農畜産物の新たな販路開拓支援を行った。 ・県庁動画スタジオtsulunosを活用した動画配信や、東京事務所と連携したテレビや雑誌の取材誘致(7件)等、各種メディアの活用により、県産農畜産物の認知度向上を図った。 ・6次産業化サポートセンターを設置し、6次産業化に取り組もうとする農業者や食品加工事業者等からの相談に対する助言やプランナー(専門家)派遣を実施した。(相談件数:のべ229件、プランナー派遣回数:のべ33件) ・人材育成を目的に、「ぐんま6次産業化チャレンジ塾」を開催し、6次産業化を成功させるDXを活用したマーケティング戦略や、ECサイト・SNS等のデジタル技術を活用した販路開拓に必要な知識等、ニューノーマルに対応した6次産業化に取り組む人材の育成に取り組んだ。(講義10回・参加者数のべ274名、インターンシップ2回・参加者数のべ41名) ・6次産業化チャレンジ支援事業として、6次産業化に意欲のある県内農業者を対象に事業提案を公募し、審査会で選考した優秀事業プランに対し、補助金による支援を行った。(応募件数:5件、補助金交付件数:2件)
R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県育成品種のウメ(白加賀)及びニジマス(ギンヒカリ)について、G-アナライズ&PRチームでの分析により強みや特徴を見だし、結果をレポートに取りまとめた。ウメについては、首都圏で開催した料理教室で食材として使用し、理解促進を図った。 ・民間企業と連携し、首都圏で県産農畜産物を食材として使用した料理教室を84回(1,029人)開催し、県産食材の理解促進と認知度向上を図った。 ・上州地鶏(ムネ肉)については、G-アナライズ&PRチームの分析結果を踏まえ、機能性表示食品としての届出が消費者庁に受理された。 ・食品メーカー等との共同企画による県産農畜産物の消費拡大キャンペーンを実施(229店舗)し、産地イメージの向上に努めた。 ・「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物、加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は224品目にまで拡大した。 ・コロナ禍で売上額が減少している生産者向けに、産直ECサイトを活用した県産農畜産物の新たな販路開拓支援を行い、本県登録生産者数は、29名増加し、128名となった。 ・インスタグラムやフェイスブック等のSNSや動画配信、東京事務所と連携したテレビや雑誌の取材誘致(6件)等、各種メディアの活用により、県産農畜産物の認知度向上を図った。 ・農山漁村発イノベーションサポートセンターを設置し、6次産業化や農山漁村発イノベーション(農林水産物や農林水産業に関わる多様な地域資源を活用し、新事業や付加価値を創出することにより、農山漁村における所得と雇用機会の確保を図る)に取り組もうとする農業者や食品加工事業者等からの相談に対する助言やプランナー(専門家)派遣を実施した。(相談件数:のべ193件、プランナー派遣回数:のべ38件) ・人材育成を目的に、「ぐんま6次産業化等イノベーションチャレンジ塾2022」を開催し、6次産業化や農山漁村発イノベーションを成功させるためにDXを活用したマーケティング戦略や、ECサイト・SNS等を活用した販路開拓に必要な知識等、6次産業化や農山漁村発イノベーションに取り組む人材の育成を行った。(講義8回・参加者数のべ405名、インターンシップ3回・参加者数のべ76名) ・農山漁村発イノベーション広域サポート事業を実施し、農山漁村発イノベーションサポートセンターでは支援出来ない者(※)を対象とした相談対応を行った。 <p>※サポートセンターの支援対象者となるためには、今後5年間で経営全体の付加価値額を増加させる計画を立てる必要があるため、当該計画を立てることが困難な事業者に対しては、広域サポート事業により相談対応を行った。</p>	

各年度の実績動向	R5 (3年目)	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県育成品種のブルーベリー3品種(おおつぶ星、あまつぶ星、はやばや星)について、G-アナライズ&PRチームでの分析により強みや特長を見だし、結果をレポートに取りまとめた。 ・民間企業と連携し、首都圏で県産農畜産物を食材として使用した料理教室を132回(1,039人)開催し、県産食材の理解促進と認知度向上を図った。 ・ナスについて、G-アナライズ&PRチームの分析結果を踏まえ、機能的表示食品として消費者庁に届出がされた(令和5年度末時点未受理) ・食品メーカー等との共同企画による県産農畜産物の消費拡大キャンペーンを実施(245店舗)し、産地イメージの向上に努めた。また、大手コンビニチェーンとの共同企画により、セブンイレブン県内全店舗(約500店舗)で「ぐんまクオリティ」応援フェアを2回実施し、県産農畜産物のPRを実施した。 ・「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物、加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は282品目となった。 ・コロナ禍で拡大した産直ECサイト市場の活用を生産者に促し、県産農畜産物の新たな販路開拓支援を行い、本県登録生産者数は、19名増加し、147名となった。 ・インスタグラムやフェイスブック等のSNSや動画配信、東京事務所と連携したテレビや雑誌の取材誘致(7件)等、各種メディアの活用により、県産農畜産物の認知度向上を図った。 ・農山漁村発イノベーションサポートセンターを設置し、6次産業化や農山漁村発イノベーションに取り組む農業者や食品加工事業者等からの相談に対する助言及びプランナー(専門家)派遣を実施した。(相談件数:のべ234件、プランナー派遣回数:のべ34件) ・人材育成を目的に、「ぐんま6次産業化等イノベーションチャレンジ塾2023」を開催し、6次産業化や農山漁村発イノベーションを成功させるためにDXを活用したマーケティング戦略や、ECサイト・SNS等を活用した販路開拓に必要な知識等、6次産業化や農山漁村発イノベーションに取り組む人材の育成を行った。(講義9回・参加者数のべ457名、インターンシップ2回・参加者数のべ35名) ・農山漁村発イノベーション広域サポート事業を実施し、農山漁村発イノベーションサポートセンターでは支援できない者(※)を対象とした相談対応を行った。(相談件数:のべ129件、プランナー派遣回数:のべ20件) <p>※サポートセンターの支援対象者となるためには、今後3～5年間で経営全体の付加価値額を増加させる計画を立てる必要があるため、当該計画を立てることが困難な事業者に対しては、広域サポート事業により相談対応を行った。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・G-アナライズ&PRチームの取組においては、需要に見合った生産体制の構築、おいしさや健康に関与する成分の含有量と栽培条件の関係性を検証する必要がある。 ・首都圏における料理教室は、参加者の多くがリピーターであり人気の高さが伺えるが、新規参加者が少ない。魅力的な品目・料理の提案と事前PR活動が必要である。 ・産直ECサイトを活用した生産者の販路開拓は、ECサイト活用メリットの周知や販売力向上のためのスキルアップ、登録者に対するフォローアップなど継続的な支援が必要である。 ・県内の6次産業化関連の年間販売額は年度別計画額を達成できない状況であるため、目標額達成のためには商品開発力の向上や販路の開拓等きめ細かな事業者支援に引き続き取り組む必要がある。
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

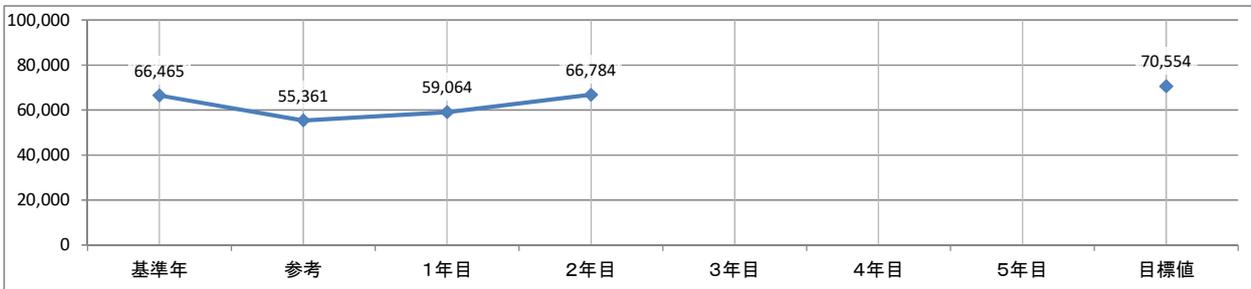
目標指標①		群馬県産農畜産物を「買いたい」「食べたい」と考えている消費者の割合							指標の単位	%
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績			31.5	31.6	34.1	33.9			
計画		-	-	31.9	31.9	32.7				



目標指標①		PR動画の年間総視聴回数						指標の単位	回	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績		-	15,097	22,488	69,999	136,227			30,000
計画		-	-	18,000	18,000	24,000				



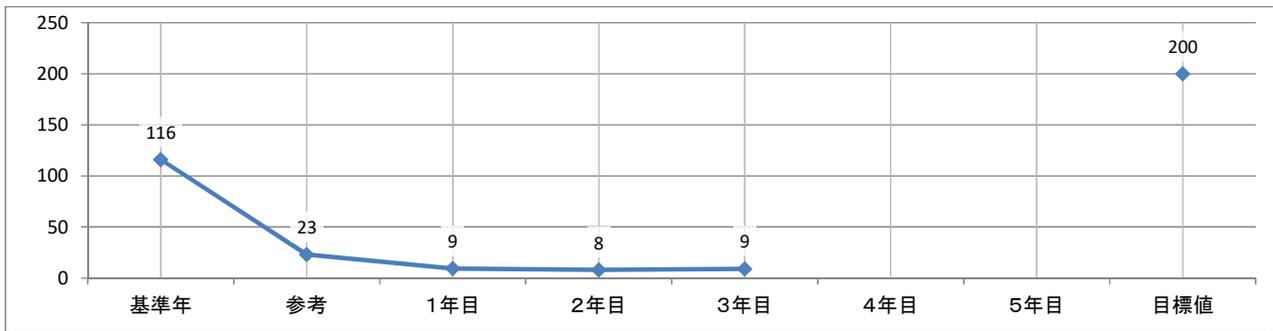
目標指標①		農業生産関連事業 年間総販売金額(6次産業化総合調査)						指標の単位	百万円	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績		66,465	55,361	59,064	66,784	未公表			70,554
計画		-	-	67,801	68,479	69,164				



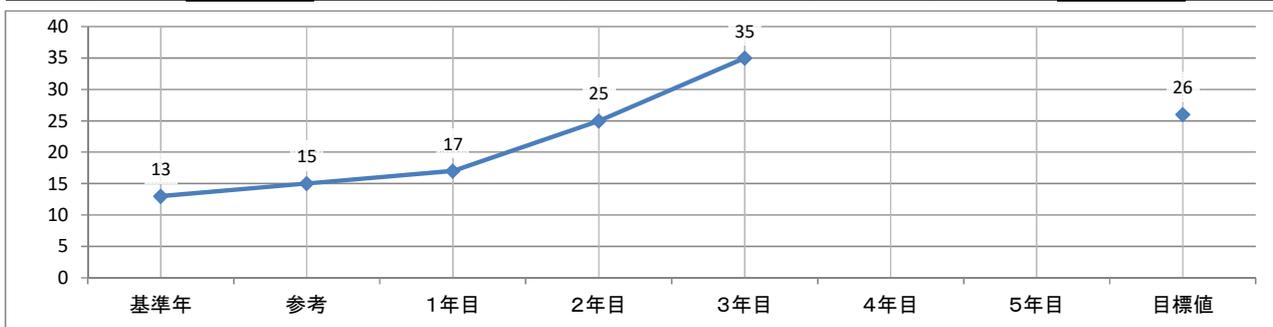
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】		
展開方向	農畜産物等の輸出による販路拡大		
推進内容	①農畜産物等の輸出による販路拡大 ③海外需要に応じた生産・環境の整備		
担当課	ぐんまブランド推進課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	C	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・香港においてバイヤー招へい商談会を2回開催し、現地PR販売を通じて評価の高かった「いちご」、「やまといも」については、本輸出に繋がる結果となった。 ・欧州(フランス・パリ)において上州和牛の認知度向上や需要回復を目的に、SNSを活用したPR販売等を実施した結果、取扱飲食店が9店舗から35店舗に増加した。 ・北関東三県連携を活用したUAEにおける県産農畜産物等プロモーションにより、こんにやく麵を使用したメニュー開発及び試食提供を行ったところ評価が高く、現地での健康志向層への需要も期待される結果となった。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <p>(香港・台湾)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バイヤー招へい商談会、現地フェア、Web商談会など開催した結果、香港でのヤマトイモ、イチゴ、サツマイモ、コンニャク加工品の輸出実績につながった。また、令和4年2月に輸入規制が緩和された台湾においては、ヤマトイモ、キャベツ、コンニャク加工品等の輸出に道筋をつけることができた。 (フランス・パリ) ・ミュンヘン星付きレストランにおいて、上州和牛を供する期間限定のプロモーションを実施したところ、レストラン関係者など実需者から一定の評価を得ることができ、上州和牛の認知度向上につながった。 (UAE・ドバイ) ・現地レストランにて、こんにやく麵を使用したメニュー開発及び試食提供を行ったところ、高評価が得られ、現地での健康志向層への需要の可能性を確認することができた。
	R5 (3年目)	C	<p>【成果】</p> <p>(香港・台湾)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・台湾及び香港市場を対象に、バイヤー招へい商談会、現地フェアなどを開催した結果、いちご、やまといも、トマトの青果物、梅加工品やこんにやく加工品など各種加工品等の商流の強化につながった。特に、台湾においては、新たに白菜の輸出に取り組み、キャベツなどを含めた今後の重量野菜の輸出に道筋をつけることができた。 (台湾バイヤー招へい:計2回実施(R5.6及びR5.11)、参加事業者数 計6者 台湾現地フェア:2回開催(R5.8及びR6.1)、販売品目 青果物1品目、加工品5品目 香港バイヤー招へい:1回実施(R5.12)、参加事業者数 計9者 香港現地フェア:1回開催(R5.2~3)、販売品目 青果物3品目、加工品6品目) (フランス・パリ) ・令和5年11月にパリ市内の料理学校における現地実需者セミナー及びレストランで上州和牛を供するプロモーションを実施したところ、レストラン関係者など実需者から一定の評価(参加者の約90%がセミナーに満足と回答し、約60%が上州和牛の取扱を希望)を得ることができ、上州和牛の認知度向上と販路拡大につながった。(セミナー参加者数29名、レストランフェア実施店舗3店舗・提供メニュー9種) (UAE・ドバイ) ・令和6年2月に、現地レストランにて、こんにやくを使用したメニュー開発・提供を行ったところ、健康志向層を中心に高評価(フェアメニューを注文した90%以上の消費者がまたこんにやくメニューを注文したいと回答)が得られ、商流構築のきっかけを作ることができた。(フェア実施店舗2店舗・提供メニュー4種) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・輸出国が求める検疫規制やスペック(量・価格・品質・規格)に対応できる生産者・産地を育成し、輸出に向けた農畜産物等の安定的な供給体制を構築する必要がある。
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

目標指標①		青果物輸出金額						指標の単位	百万円	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	116	23	9	8	9			200	
計画		-	40	40	105					



目標指標①		輸出に取り組む産地・事業社数						指標の単位	産地・者	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	13	15	17	25	35			26	
計画		-	20	22	23					

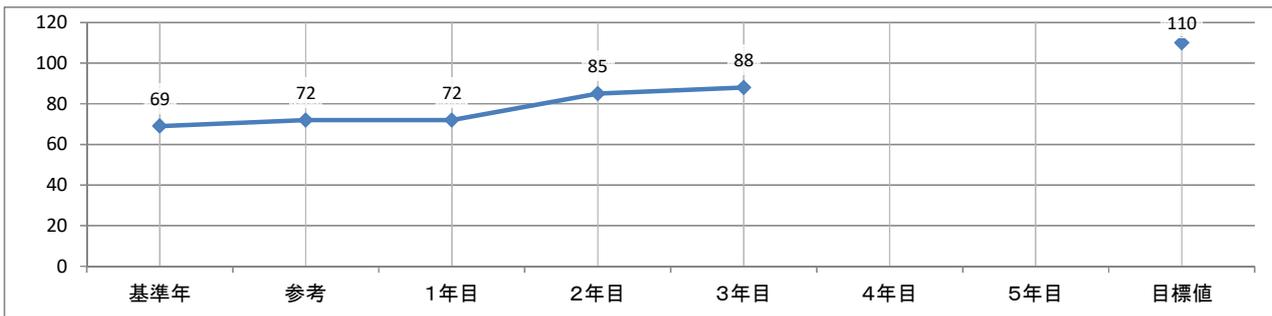


群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

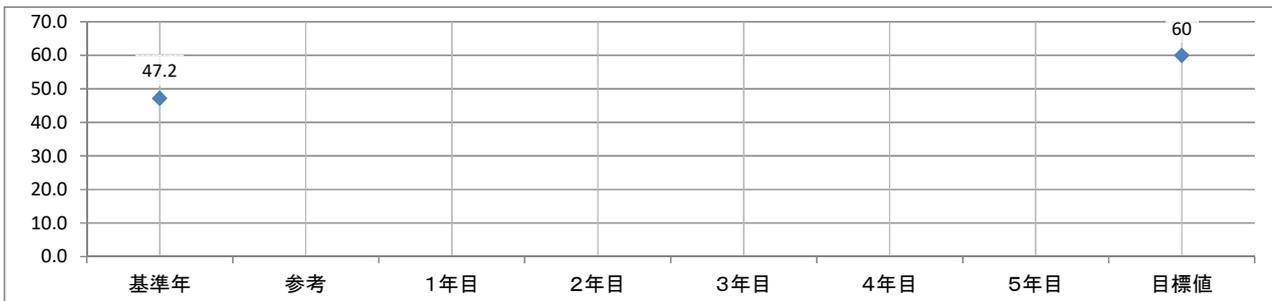
施策の柱	豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】		
展開方向	食の地産地消の推進による地域内の経済循環の向上		
推進内容	①地産地消の推進による県民の県産農畜産物への愛着醸成 ②地域の郷土料理等の食文化への理解促進		
担当課	ぐんまブランド推進課、健康長寿社会づくり推進課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県産農畜産物やその加工品を販売又は利用する小売店、飲食店及び宿泊施設等を「ぐんま地産地消推進店」として新たに8店舗を認定するとともに、更新時に3店舗が優良店へ昇格した。また、「地産地消推進店&直売所ガイドブック」を約30,000部作成し、観光関連施設、道の駅、健康情報ステーション及び市町村等へ配布して店舗のPRを行った。 県民が県産農畜産物を日常的に意識する機会を増やすため、GUNMA QUALITY(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物やその加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は200品目にまで拡大した。 学校給食への県産農畜産物の利用を促進するため、栄養教諭・学校栄養職員向けに本県農業の特徴やG-アナライズ&PRチームで分析した県産農畜産物の強み等を説明した資料を作成して提供した。昨年に引き続き、教育委員会と連携し、県内全公立小中学校でのすき焼き給食を実施した。 「和食文化絵手紙コンテスト」を開催し、5歳から91歳まで、県内各地から603点の応募があった。作品の創作過程を通じて、地域の郷土料理等の食文化への関心を高めるとともに、新聞、ラジオ等の各種媒体を活用した事業広報により、県民の食文化に関する理解の促進が図られた。 若い世代食育推進協議会において、大学生等による和食文化のPR動画作成等の実践活動を通し、若い世代の食文化への関心と理解が深まった。 和食と地域食文化の保護継承のため、農林水産省と連携し、郷土料理データベース「うちの郷土料理」に群馬県の郷土料理27品目を掲載した。地域や家庭で受け継がれてきた料理への接点の拡大が図られた。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県産農畜産物やその加工品を販売又は利用する小売店、飲食店及び宿泊施設等を「ぐんま地産地消推進店」として新たに17店舗を認定するとともに、更新時の昇格を含め新たに14店舗を優良店へ認定した。また、県産農畜産物の魅力を実感する機会を増やすため、「ぐんま地産地消推進店」を巡るスタンプラリーを実施し、延べ約500人の参加があった。 県民が県産農畜産物を日常的に意識する機会を増やすため、「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物やその加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は224品目にまで拡大した。 学校給食への県産農畜産物の利用を促進するため、栄養教諭・学校栄養職員向けに本県農業の特徴やG-アナライズ&PRチームで分析した県産農畜産物の強み等を説明した資料を作成して提供した。また、「学校給食ぐんまの日」に、畑と近隣の小学校4校の教室をリモートで結び、生産者と児童約600人が交流を図る食農教育を行った。 令和3年度に実施した「和食文化絵手紙コンテスト」の作品の展示を、イオンモール高崎(8月4日)、イオンモール太田でのぐんまフェア(10月26日から30日)、県民センター(11月15日から12月15日)で実施し、来場者の地域の食文化への理解を深める機会となった。 県内大学生等により郷土料理動画作成などの食育実践事業を実施した結果、若い世代の食文化への関心と理解が深まった。
	R5 (3年目)	A	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県産農畜産物やその加工品を販売又は利用する小売店、飲食店及び宿泊施設等を「ぐんま地産地消推進店」として新たに8店舗を認定するとともに、更新時の昇格を含め新たに3店舗を優良店へ認定した。 県民が県産農畜産物を日常的に意識する機会を増やすため、「GUNMA QUALITY」(県産農畜産物統一ロゴマーク)の普及に努めた結果、県産農畜産物やその加工品の包装、出荷箱などにおける使用品目数は282品目となった。 学校給食への県産農畜産物の利用を促進するため、栄養教諭・学校栄養職員向けに本県農業の特徴やG-アナライズ&PRチームで分析した県産農畜産物の強み等を説明した資料を作成して提供した。また、「学校給食ぐんまの日」に、畑と近隣の小学校10校の教室をリモートで結び、生産者と児童約450人が交流を図る食農教育を行った。 「和食文化絵手紙コンテスト」の作品の展示を、イオンモール高崎(8月3日)、イオンモール太田でのぐんまフェア(11月8日から12日)、県民センター(11月14日から12月13日)、県民ホール(11月20日から26日)、イオンモール高崎でのベジタブルフェス(12月16日から17日)で実施し、来場者の地域の食文化への理解を深める機会となった。 群馬栄養改善学会での食文化継承に関する取組の発表を行った。 県内大学生等により郷土料理動画作成などの食育実践事業を実施した結果、若い世代の食文化への関心と理解が深まった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内における地産地消運動を効果的に展開するためには、関係機関・団体の気運醸成に努める取組が必要である。 本県の伝統的な食文化を次世代に継承するため、継続して、和食やぐんまの伝統的な食文化に関する展示や広報の実施や、若い世代における実践活動等を通じて、食文化への理解促進を図る必要がある。

実各 年 動 向 の	R6 (4年目)	【成果】 【課題】
	R7 (最終年)	【成果】 【課題】

目標指標①		ぐんま地産地消優良店認定店舗数							指標の単位	店舗	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する 進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績		69	72	72	85	88				110
計画			-	75	75	87					



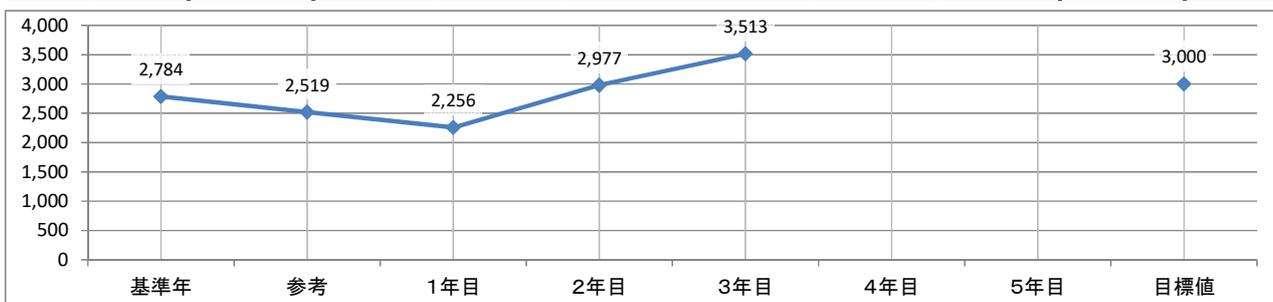
目標指標②		郷土料理や伝統料理等の地域や家庭で受け継がれてきた料理や味について知っている県民の割合							指標の単位	%	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する 進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績		47.2	-	R6年度公表	R6年度公表	未公表				60
計画			-	52	53.7	55.8					



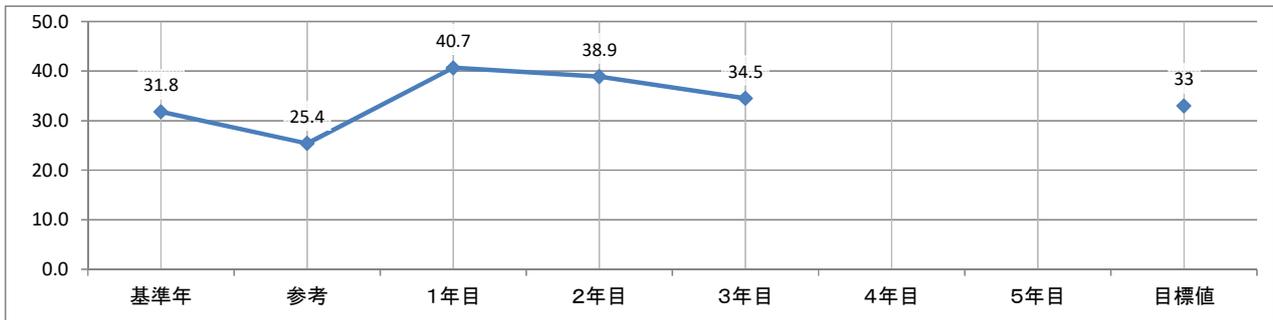
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	豊富で多彩な県産農畜産物の需要拡大【需要拡大】		
展開方向	安全確保策に基づく安全・安心な農畜産物の提供		
推進内容	①食と農に対する県民の理解促進と安心の提供 ②農薬の適正使用と危害防止対策の推進 ③生産農場段階における畜産物の安全性の確保 ④検査・確認体制の充実		
担当課	農政課有機・循環型農業推進室、農政課家畜防疫対策室、食品・生活衛生課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・新型コロナウイルスの感染拡大により、多くの講演会や講座が中止となったため、令和3年度実績が基準年の実績値以下となってしまったものの、新しい生活様式のもと、オンラインセミナー等新たな手法を取り入れて実施した。 ・農薬を使用する生産者や農薬を販売する販売者を対象に講習会等を開催し、農薬の適正使用と危害防止対策を周知した。 ・農産物の放射性物質検査を67件実施したところ、食品衛生法上の基準値を超えた事例はなかった。 ・動物用医薬品販売業の許可事業所の立入検査により、適正な取扱いに関する調査等を実施し、適切な販売を指導した。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・新型コロナウイルスの感染症予防の観点から、引き続き、オンラインセミナーによるリスクコミュニケーション事業を実施した。 ・農薬を使用する生産者や農薬を販売する販売者を対象に講習会等を開催し、農薬の適正使用と危害防止対策を周知した。 ・農産物の放射性物質検査を37件実施したところ、食品衛生法上の基準値を超えた事例はなかった。 ・動物用医薬品販売業の許可事業所の立入検査により、適正な取扱いに関する調査等を実施し、適切な販売を指導した。
	R5 (3年目)	A	【成果】 ・コロナ前の対面のほか、コロナ禍に培った実施方法を踏まえてオンラインや動画配信等の方法も取り入れながらリスクコミュニケーション事業を実施した。 ・動物用医薬品販売業の許可事業所の立入検査により、適正な取扱いに関する調査等を実施し、適切な販売を指導した。 【課題】 ・消費者への理解促進を図るため、引き続き、様々な方法によりリスクコミュニケーション事業を実施する必要がある。
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

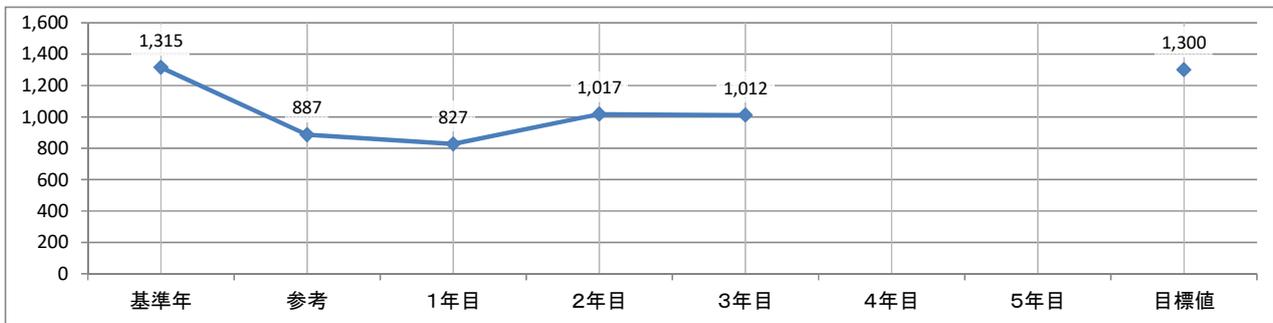
目標指標④	リスクコミュニケーション事業年間参加人数							指標の単位	人	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	2,784	2,519	2,256	2,977	3,513			3,000	337.5%
計画		-	3,000	3,000	3,000					



目標指標④		動物用医薬品販売業者への立入検査割合							指標の単位	回	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	31.8	25.4	40.7	38.9	34.5					33
計画		-	33.3	33.3	33						



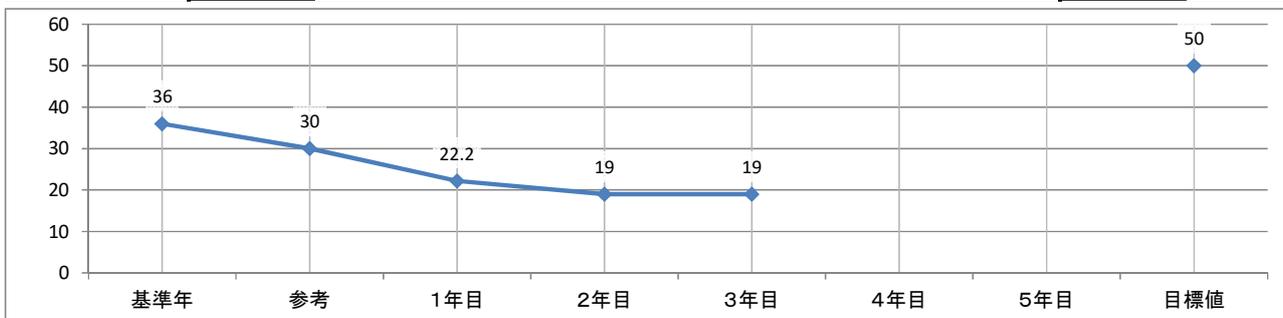
目標指標④		講習会等での農業適正使用指導回数							指標の単位	回	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	1,315	887	827	1,017	1,012					1,300
計画		-	1,300	1,300	1,300						



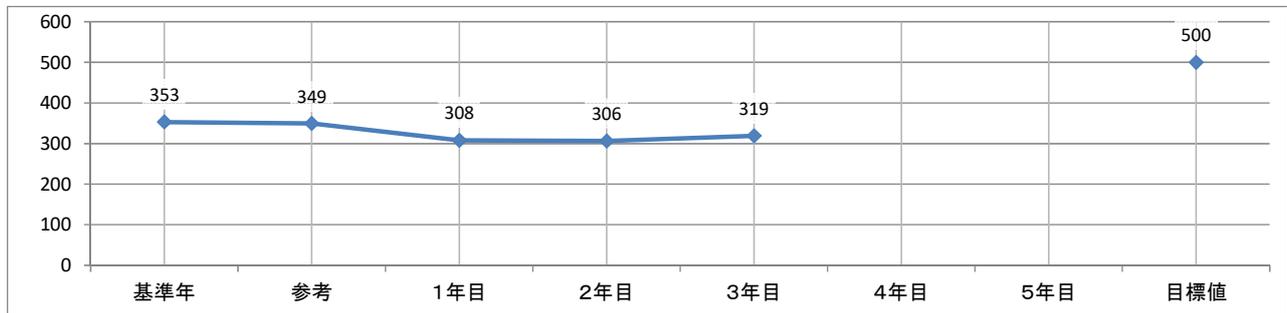
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】		
展開方向	歴史的・文化的背景を持つ多彩な地域特産物の生産振興		
推進内容	多彩な特産物の生産による活力と魅力ある地域づくり ①蚕糸、②水産、③きのこ		
担当課	蚕糸特産課、林業振興課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	C	【成果】 ・桑の凍霜害等により繭生産量は大幅に減少したものの、「ぐんま養蚕学校」等を通じ、新たに2経営体が養蚕を開始した。 ・県内17漁協中6漁協(うちR3新規は5漁協)がオンライン遊漁券を導入した。ハコスチの日(11月19日)にPRイベントを行い、ハコスチの普及と利用促進に努めた。 ・県内産きのこを学校給食へ提供し、きのこの需要拡大の取組を行った。また、マスメディア等を利用してきのこの消費拡大に取り組んだ。
	R4 (2年目)	B	【成果】 ・「ぐんま養蚕学校」等を通じ、新たに3経営体が養蚕を開始した。また、中古養蚕機材をリサイクルし、新規参入者等へ供給する体制を整えた。 ・県内17漁協中9漁協(うちR4新規は3漁協)がオンライン遊漁券を導入し、利便性が向上した。また、ハコスチの日(11月19日)にPRイベントを行い、ハコスチの普及と利用促進に努めた。 ・県内産きのこの学校給食への提供と食育の実施、きのこ品評会、きのこ料理コンクールの開催により消費拡大の取組を行った。また、マスメディア等を利用して、きのこの消費拡大に取り組みました。
	R5 (3年目)	B	【成果】 ・「ぐんま養蚕学校」等を通じ、新たに3経営体が養蚕を開始した。 ・県内17漁協中11漁協(うちR5新規は2漁協)がオンライン遊漁券を導入し、利便性が向上した。また、ハコスチの日(11月19日)にちなんだPRイベントを行い、ハコスチの普及と利用促進に努めた。 ・新品目きのこの種苗登録申請をするとともに温泉旅館と連携し、新品目きのこの料理レシピを作成した。また、県内産きのこを学校給食への提供による食育の実施やきのこ品評会、きのこ料理コンクールの開催、マスメディアを利用した宣伝などきのこの消費拡大に取り組んだ。 【課題】 ・遊漁者に対して、オンライン遊漁券の適正な利用を周知する必要がある。また、ハコスチに関して、需要に対して供給が満たされていない状況であり、増産が求められている。
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

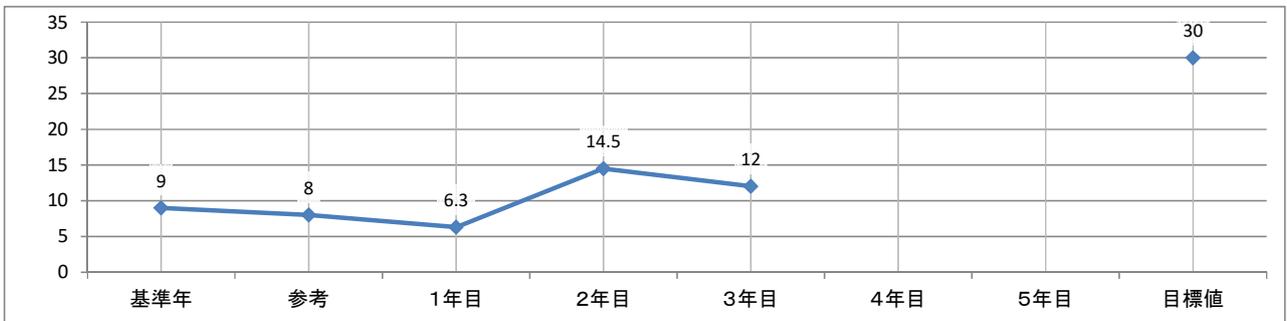
目標指標①		繭生産量							指標の単位	t	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績		36	30	22.2	19	19			50	-121.4%
計画		36	-	39	42	36					



目標指標①		養蚕経営体一戸当たり繭生産量						指標の単位		kg	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	353	349	308	306	319			500		-23.1%
計画		-	395	420	353						



目標指標①		ハコスチ生産量						指標の単位		t	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	9	8	6.3	14.5	12			30		14.3%
計画		-	24	24	10						



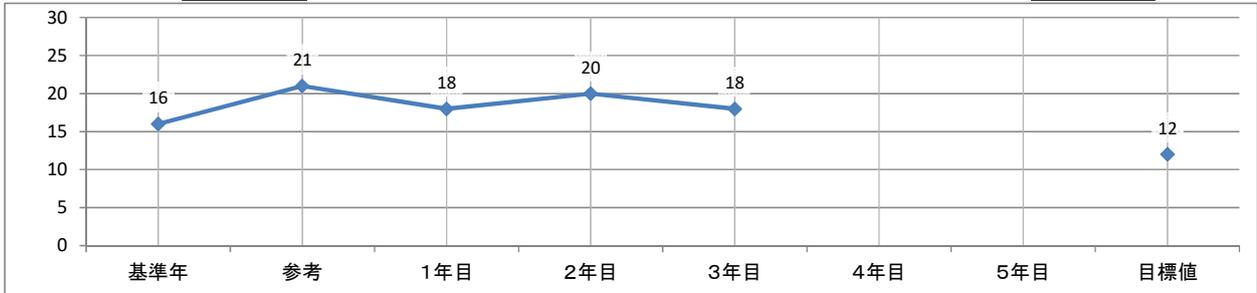
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】		
展開方向	資源循環を目指した環境保全型農業の推進		
推進内容	①環境保全型農業の推進 ②病害虫の発生状況を考慮した効果的な防除の推進 ③食品ロス「ゼロ」の推進		
担当課	農政課有機・循環型農業推進室、ぐんまブランド推進課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・エコファーマー認定者数について、普及指導現場との連携した取組により概ね計画を達成できた。また、生分解性マルチの活用農業者へのヒアリングや販売者との情報交換を行い、普及・啓発した。 ・効果的な病害虫防除を実施する判断材料として、「病害虫発生予報」を毎月(12回)、新たな病害虫の発生が確認された場合に「特殊報」を2回、その他必要に応じて「病害虫情報」を4回、計18回提供した。 ・クビアカツヤカミキリ等の重要病害虫について、発生状況を調査するとともに適切な防除対策を図った。また、消費・安全対策交付金を活用して、発生地のある果樹園における防除の取組を支援した。 ・農業者や農業団体、食品関連事業者向けに食品ロス削減に係る情報提供などの普及啓発に取り組みました。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普及指導現場との連携した取組により、累計エコファーマー認定者数は6,475人と目標値を達成できた。 ・効果的な病害虫防除を実施する判断材料である「病害虫発生予報」を毎月(計12回)、新たな病害虫の発生が確認された際に情報提供する「特殊報」を1回、病害虫の多発が予想される際に情報提供する「注意報」を1回、その他必要に応じて情報提供する「病害虫情報」を3回行った。 ・クビアカツヤカミキリ等の重要病害虫について、発生状況を調査するとともに適切な防除対策を図った。また、消費・安全対策交付金を活用して、発生地のある果樹園における防除の取組を支援した。 ・直売所等で生鮮食品ロスが発生した場合に、それを廃棄することなく、子ども食堂等へ寄付できる体制づくりを各地域で促進していくことを目的として、JA直売所、子ども食堂関係者、県普及指導員、市町村職員等を対象に「農業生産分野における食品ロス削減推進セミナー」を開催し、食品ロス削減に関する普及啓発に取り組んだ。(参加者数30名)
	R5 (3年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・みどりの食料システム法に基づく群馬県環境負荷低減事業活動実施計画認定制度(ぐんまエコファーマー認定制度(みどり認定))を、令和5年5月に創設した。令和5年度末の認定者数は1,110者(ぐんまエコファーマー75者、旧エコファーマー1,035者)、ぐんまエコファーマーと旧エコファーマーの累計は6,687者で、目標を達成した。 ・群馬県特別栽培農産物認証は、認証者数が減少の一途であったが、令和5年度は前年度から10者増加した。(R1:192者、R2:161者、R3:143者、R4:123者、R5:133者) ・食品製造事業者等で構成される群馬県食品工業協会会員企業を対象とし、「食品ロス削減と地域資源活用ビジネス創出に向けた群馬県の取組」と題した講演に、廃棄物・リサイクル課及びぐんまブランド推進課職員が講師として参加し、食品ロス削減及び食品リサイクルに関する機運醸成を図った。(参加者数19名) ・地域食品産業連携プロジェクト(LFP)推進事業において、食品ロス削減及び食品リサイクルをテーマとした事業者プレゼンテーションを実施し、興味・関心のある事業者が新たなビジネス創出に向けた検討を行った。(参加者57名) <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぐんまエコファーマー制度には、税制特例や補助事業の優先採択等の優遇措置はあるが、取得に向けたさらなるメリット措置拡充が必要。 ・ぐんまエコファーマー制度及び特別栽培農産物認証制度の農業者・消費者双方への周知が不足しており、制度の周知や理解促進を図る必要がある。また、高価格での販売も難しい状況にある。 ・耕種以外のぐんまエコファーマー認定(畜産・水産)の認定基準が少ないため、基準の見直し検討が必要である。 ・登録再生利用事業者が減少している状況もあり、食品リサイクル制度を広く周知し、機運の醸成を図る必要がある。
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

目標指標①		エコファーマー認定者数(累計)							指標の単位	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	5,728	5,913	6,047	6,475	6,687				
計画		-	6,120	6,320	6,520					



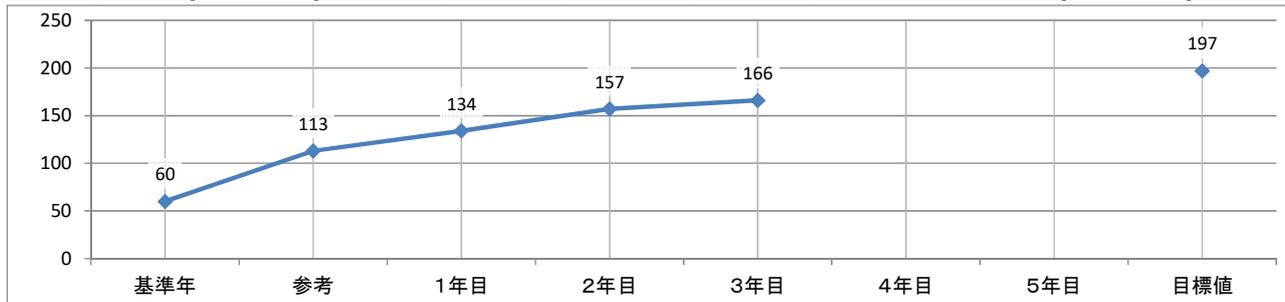
目標指標①		病害虫発生予察情報の提供回数(年間)							指標の単位	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	16	21	18	20	18				
計画		-	12	12	12					



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】		
展開方向	誰もが安心して暮らせる農村地域の実現に向けた防災・減災対策の強化		
推進内容	①防災重点ため池の豪雨・地震対策 ②農村の防災・減災の推進		
担当課	農村整備課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	A	【成果】 ・緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるハザードマップの作成について、事業主体を支援し、防災重点ため池5か所のハザードマップを作成した。(175箇所/197箇所作成済み) ・防災重点ため池32か所の豪雨・地震における詳細調査に着手した。 (豪雨:154/197箇所調査済み、地震:175/197箇所調査済み) ・県、市町村、防災重点ため池を管理する土地改良区及び群馬県土地改良事業団体連合会で構成する「群馬県ため池保全整備連絡会」を設置し、ため池の適正な管理手法等について検討した。(2回開催)
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるハザードマップの作成について、事業主体を支援し、防災重点ため池16か所のハザードマップを作成した(191箇所/197箇所作成済み)。 ・防災重点ため池23か所の豪雨・地震における詳細調査に着手した(豪雨:161/197箇所調査済み、地震:185/197箇所調査済み)。 ・「ため池サポートセンターぐんま」を開設(R4.4.27)し、県内の防災重点ため池の現地パトロール(40箇所)や相談対応(15回)を行い、ため池管理者に対して適正な管理手法について指導を行った。
	R5 (3年目)	B	【成果】 ・緊急時の迅速かつ安全な避難行動につなげるハザードマップの作成について、事業主体を支援し、防災重点ため池3か所のハザードマップを作成した。(194箇所/197箇所作成済み) ・防災重点ため池9箇所の豪雨・地震における詳細調査に着手した(地震:187/197箇所調査済み、豪雨:169/197箇所調査済み)。 ・「ため池サポートセンターぐんま運営業務委託」を契約(R5.4.27)し、県内の防災重点ため池の現地パトロール(43箇所)や相談対応(9回)を行い、ため池管理者に対して適正な管理手法について指導を行った。 【課題】 ・豪雨・地震における詳細調査において、安全性の低いため池と判定されたため池の防災工事を、計画的かつ集中的に実施できるよう対策事業や実施主体の調整を行う必要がある。
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

目標指標①		ハザードマップの作成及び豪雨・地震における詳細調査を完了させる防災重点ため池数							指標の単位	箇所
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	60	113	134	157	166				
計画	60	-	129	157	168					



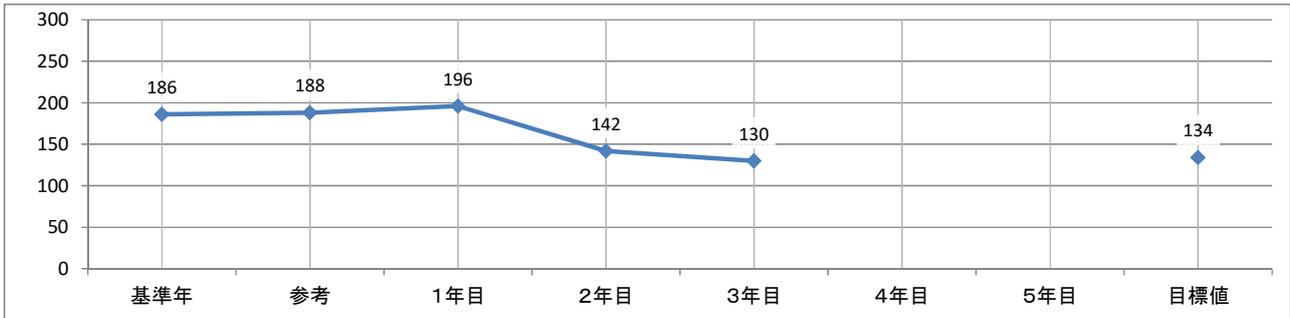
群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	魅力あふれる農村の持続的な発展【魅力度向上】		
展開方向	官民共創による野生鳥獣被害防止対策の強化		
推進内容	①効果的な被害対策の推進と人材育成 ②地域の一体的な取組の推進		
担当課	蚕糸特産課、鳥獣被害対策支援センター		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ、ニホンザル、カモシカ、イノシシ、ツキノワグマ及びカワウの6鳥獣種について、鳥獣保護管理法に基づく適正管理計画(5か年計画)に基づき、捕獲や被害防除対策等を推進した。また、学識経験者等の意見を反映し、ニホンザル及びツキノワグマの次期計画を策定した。 ・嬭恋村に生息するニホンジカは広域に移動するため、ICT(GPS)首輪を利用し移動経路等の調査を実施した(4頭を追跡)。調査の結果、ニホンジカは農作物の栽培・収穫期(春～秋)に村内を利用し、冬期は隣接する長野県へ移動することが把握され、集中利用する移動ルートでの効果的な捕獲の検討が可能となった。 ・鳥獣交付金等により、市町村が被害防止計画に基づき実施する総合的な被害対策を支援した。 ・鳥獣被害地での合意形成及び対策の実行管理を担う地域の牽引者を育成する「地域リーダー育成研修」を中部管内、西部管内及び吾妻管内において開催した。 ・地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」を中部管内で2地区、西部管内で3地区、吾妻管内で2地区、東部管内で1地区の計8地区において実施した。
	R4 (2年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ、ニホンザル、カモシカ、イノシシ、ツキノワグマ及びカワウの6鳥獣種について、鳥獣保護管理法に基づく適正管理計画(5か年計画)に基づき、捕獲や被害防除対策等を推進した。 ・鳥獣交付金等により、市町村が被害防止計画に基づき実施する総合的な被害対策を支援した。 ・嬭恋村を広域行動域とするニホンジカのICT(GPS)首輪等による生息状況調査により、移動ルート、捕獲適地情報を把握した。調査結果を踏まえ、群馬県・長野県境広域捕獲計画を作成し、R5に広域捕獲を連携して実施する。 ・豚熱感染拡大防止のため、野生イノシシの移動経路となっている河川内や養豚場周辺の草木等の伐採等を行い、緩衝帯を整備した。 ・鳥獣被害地での合意形成及び対策の実行管理を担う地域の牽引者を育成する「地域リーダー育成研修」7回、地域リーダーからの情報に基づき広域的な課題に取り組む指導者を育成する「地域対策指導者育成研修」1回、各対策を効果的に組み合わせたプランを作成し現地への技術指導を行う技術者を育成する「高度専門技術者育成研修」4回を開催した。 ・地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」を中部管内で2地区、西部管内で4地区、吾妻管内で2地区、利根沼田管内で1地区の計9地区において実施した。
	R5 (3年目)	B	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ、ニホンザル、カモシカ、イノシシ、ツキノワグマ及びカワウの6鳥獣種について、鳥獣保護管理法に基づく適正管理計画(5か年計画)に基づき、捕獲や被害防除対策等を推進した。 ・鳥獣交付金等により、市町村が被害防止計画に基づき実施する総合的な被害対策を支援した。 ・嬭恋村を広域行動域とするニホンジカのICT(GPS)首輪等による生息状況調査により、移動ルート、捕獲適地情報を把握した。調査結果を踏まえ、群馬県・長野県境広域捕獲計画を作成し、R5に広域捕獲を連携して実施した。 ・豚熱感染拡大防止のため、野生イノシシの移動経路となっている河川内や養豚場周辺の草木等の伐採等を行い、緩衝帯を整備した。 ・鳥獣被害地での合意形成及び対策の実行管理を担う地域の牽引者を育成する「地域リーダー育成研修」8回、地域リーダーからの情報に基づき広域的な課題に取り組む指導者を育成する「地域対策指導者育成研修」9回、各対策を効果的に組み合わせたプランを作成し現地への技術指導を行う技術者を育成する「高度専門技術者育成研修」4回を開催した。 ・地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組む「鳥獣害に強い集落づくり支援事業」を中部管内で1地区、吾妻管内で2地区、利根沼田管内で3地区の計6地区において実施した。 ・捕獲した鳥獣肉を利活用するため、国の出荷制限を一部解除する手続きを行い、2市で捕獲されたニホンジカをジビエ利活用できるよう支援した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ニホンジカ、イノシシ適正管理計画の期間終了に伴い、学識者等の意見を反映した策定を進める必要がある。 ・生産者や地域住民の捕獲活動への体系的な参画を推進する必要がある。 ・豚熱にかかるイノシシ対策を引き続き推進する必要がある。
	R6 (4年目)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>
	R7 (最終年)		<p>【成果】</p> <p>【課題】</p>

目標指標①		野生鳥獣による農作物被害額							指標の単位	千円	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	337,746	327,886	345,150	277,904	322,551					176,000
計画		-	227,000	212,000	199,000						



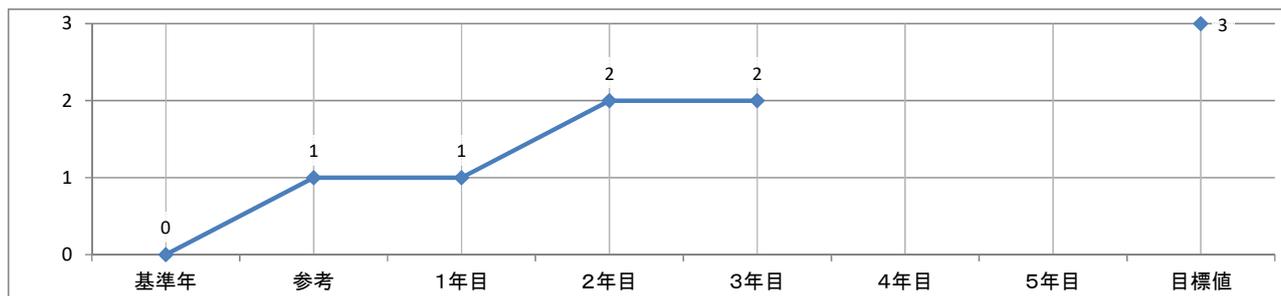
目標指標②		野生鳥獣による農作物被害面積							指標の単位	ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	186	188	196	142	130					134
計画		-	165	157	149						



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出【価値創出】		
展開方向	「快疎」な空間としての農村地域を求める関係人口の創出・拡大		
推進内容	①本県の固有の風土が培った地域資源の磨き上げ ②農村の魅力発信による関係人口の創出 ③特色ある農泊等の推進による関係人口の拡大・深化 ④関係機関と連携した農村への移住・定住の促進 ⑤多様な人材を巻き込むことによる地域コミュニティの活性化		
担当課	農政課有機・循環型農業推進室		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	B	【成果】 ・大学生等で構成するやま・さと応縁隊が、地域住民との交流を通じて農山村の課題解決や魅力発信及び地域資源の掘り起こしに取り組んだ。 ・農村の魅力を効果的に伝える農泊プロモーション動画を2本製作し、tsulunosを活用して魅力発信をおこなった。 ・農泊モデル地区(農泊×キャンピングカー)の取組を、ぐんまグリーン・ツーリズム協議会において県内各地域にPRした。また、2地区目のモデル地区の実施に向けて、施設見学や聞き取り調査及び調整を行い構想を作成した。 ・ぐんま暮らし・外国人活躍推進課と連携し、オンライン移住相談に参加、就農情報の発信に努めた。
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・大学生等で構成するやま・さと応縁隊が、地域住民との交流を通じて農山村の課題解決や魅力発信及び地域資源の掘り起こしに取り組んだ。 ・農泊実践者インタビューを新コンテンツ「農泊を語る」としてwebで情報発信し、農村地域の魅力を発信した。また、農村の魅力を効果的に伝える農泊プロモーション動画5本を、tsulunosやイベント等で配信して魅力を発信した。さらに、2地区目の農泊モデル地区として「農泊×養蚕」モニターツアーを2回実施し、特色ある農泊の推進を行った。
	R5 (3年目)	A	【成果】 ・大学生等で構成するやま・さと応縁隊が、地域住民との交流を通じて農山村の課題解決や魅力発信及び地域資源の掘り起こしに取り組んだ(下仁田名産品を使ったレシピ集の作成、遊休農地を活用したリゾート専用米の商品開発等)。 ・農泊実践者インタビューをぐんまグリーン・ツーリズムホームページ「農泊を語る」で8件掲載することや、R4年度に農泊モデル地区として創出した「ぐんま農泊×養蚕体験」モニターツアーのプロモーション動画を制作、公開することで、「農泊」の推進による農村地域の魅力を発信した。 【課題】 ・大学がどの地域でやま・さと応援隊を必要としているのか把握できていないところがあり、大学と地域のマッチングが困難になっている。そのため地域のニーズを調査し、把握していく必要がある。 ・養蚕体験の需要は大きいですが、受入規模が小さいため、創出した農泊モデルを普及させていく取組が具体化していない。
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

目標指標①	「農泊モデル地区」の支援数							指標の単位	地区
実績	基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率
	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	実績	0	1	1	2	2			3
計画		-	1	2	2				



群馬県農業農村振興計画2021-2025 基本施策 実績シート

施策の柱	ニューノーマルがもたらす農村の新たな価値の創出【価値創出】		
展開方向	農村協働力(地域の絆)の深化による多面的機能の維持・発揮		
推進内容	①協働活動による多面的機能の維持・発揮 ②中山間地域の農業生産活動の支援		
担当課	農村整備課		
各年度の実績動向	年度	達成状況	成果・課題
	R3 (1年目)	A	【成果】 ・多面的機能支払交付金に取り組む281組織(うち広域化8組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。また、土地改良区による事務支援を予定する組織や生産基盤整備事業の計画地域における組織の立ち上げを支援した。 ・営農条件が不利な中山間地域の農業生産活動を継続する取組を行う170組織を支援し、農村集落機能の維持・強化を図った。
	R4 (2年目)	A	【成果】 ・多面的機能支払交付金に取り組む276組織(うち広域化9組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。また、土地改良区による事務支援を予定する組織や生産基盤整備事業実施中地域における組織の立ち上げを支援した。 ・営農条件が不利な中山間地域の農業生産活動を継続する取組を行う171組織を支援し、農村集落機能の維持・強化を図った。
	R5 (3年目)	A	【成果】 ・多面的機能支払交付金に取り組む285組織(うち広域化11組織)が行う協働活動を支援し、適正な農地、農業用施設の保全管理を推進した。また、土地改良区を中心に構成された広域組織や生産基盤整備事業実施中地域における組織の立ち上げを支援した。 ・営農条件が不利な中山間地域の農業生産活動を継続する取組を行う175組織に対して、中山間地域等直接支払交付金を交付し、農村集落機能の維持・強化を図った。 【課題】 ・活動組織の構成員の高齢化により、取り組みを断念する組織が増えているため、広域化による作業や事務負担の軽減が必要である。 ・農業者の高齢化や担い手の減少により、中山間地域等直接支払交付金の対象となる活動の継続が困難となっている組織もあることから、他集落との連携や広域化による集落機能の強化と事務の省力化を推進する必要がある。
	R6 (4年目)		【成果】 【課題】
	R7 (最終年)		【成果】 【課題】

目標指標①		農地・農業用施設の維持・保全が図られた農地面積							指標の単位	ha	
実績		基準年	参考	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	目標値	目標値に対する進捗率	
		R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7			
	実績	17,553	17,890	18,951	18,869	19,467					20,000
計画	17,553	-	18,255	19,210	19,431						

